



SOFTWARE JAPAN 2011

サイバー・フィジカル・システム
ークラウドに組み込まれる実世界ー

日時 ■ 2011年2月3日(木) (9:30~17:50 受付開始 9:00~) 会場 ■ タワーホール船堀 (東京・江戸川区)

時間 ■ **メインセッション** [会場：5F 大ホール]

- [9:30~ 9:35] オープニング/ITフォーラム紹介
- [9:35~12:45] 第1セッション「キーノートセッション」
- [13:45~15:30] 第2セッション「パネルセッション」
- [15:45~17:45] 第3セッション「ザ・ジャパンソフトウェアセッション」
- [17:45~17:50] クロージング

■ **ITフォーラムセッション** [会場：2F 各会場]

- [13:30~17:45] サービスサイエンスフォーラム×社団法人 日本情報システム・ユーザ協会 (2F 桃源)
- [13:30~15:30] コンタクトセンターフォーラム (2F 福寿)
- 独立行政法人 情報処理推進機構 ソフトウェア・エンジニアリング・センター (2F 平安)
- 高度IT人材育成フォーラム (2F 瑞雲)
- 先端IT活用推進コンソーシアム (2F 蓬莱)
- [15:45~17:45] ITダイバーシティフォーラム (2F 平安)
- 社団法人 電子情報技術産業協会 (2F 瑞雲)
- 社団法人 情報サービス産業協会 (2F 蓬莱)

■ **ITフォーラム展示** [会場：5F 大ホール前]

- [9:30~17:30] ユニバーサルデザイン協創フォーラム

■ **懇親会** [会場：2F 福寿] **Sponsored by デル株式会社**

- [18:00~20:00] 懇親会 (参加費無料)

会場 タワーホール船堀 [東京都江戸川区船堀4-1-1]

主催 一般社団法人 情報処理学会

協賛 社団法人 情報サービス産業協会, 社団法人 日本情報システム・ユーザ協会, 社団法人 電子情報技術産業協会, 先端IT活用推進コンソーシアム, 社団法人 電子情報通信学会, 日本ソフトウェア科学会

後援 文部科学省, 経済産業省, 総務省, 独立行政法人 情報処理推進機構

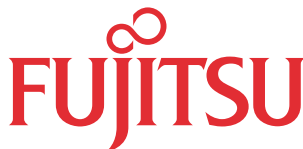
SPONSORS

デル株式会社



株式会社日立製作所

富士通株式会社



株式会社東芝

日本電気株式会社



富士フイルム株式会社

HITACHI
Inspire the Next

有限会社ナック



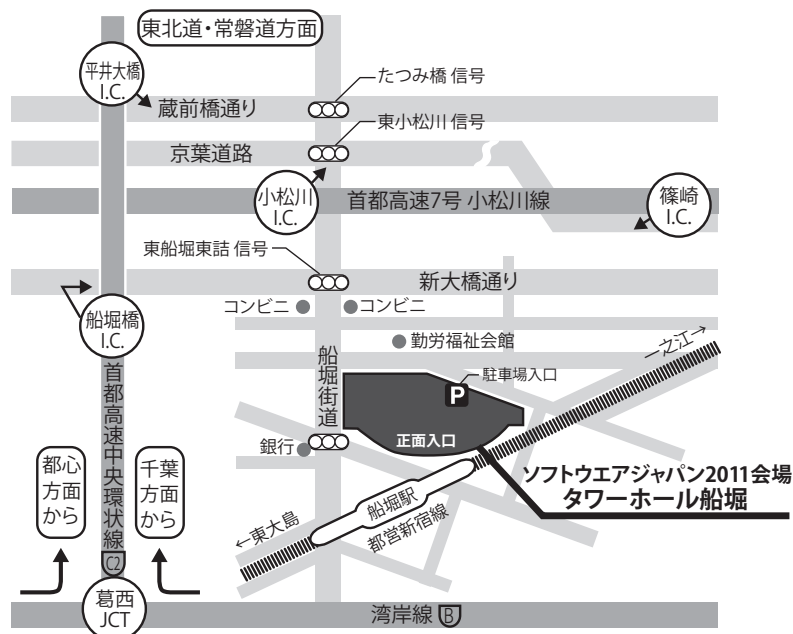
TOSHIBA
Leading Innovation >>>

医療法人 茜会 昭和病院

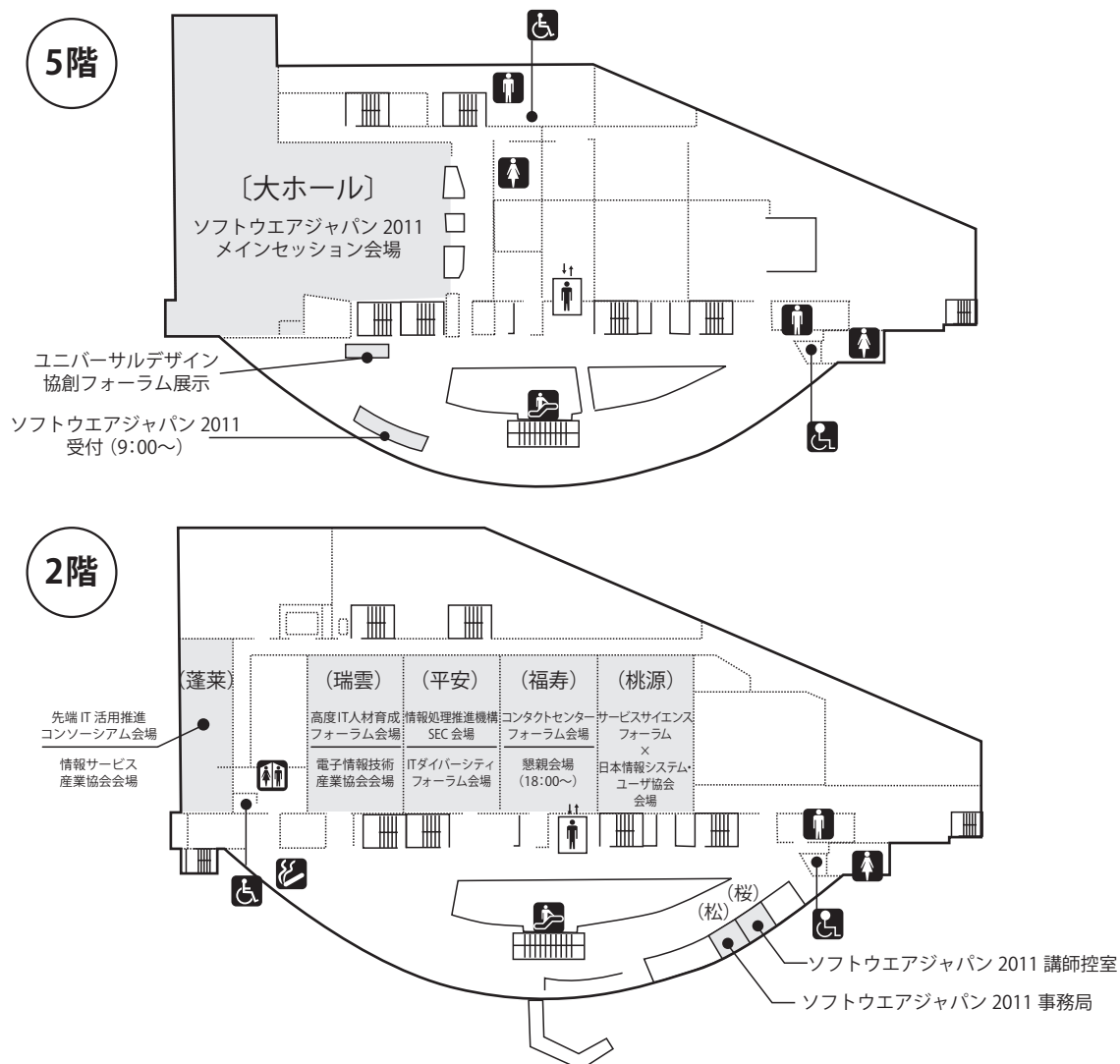


FUJIFILM
富士フイルム株式会社
富士フイルム ソフトウェア株式会社

会場案内図



館内案内図 [タワーホール船堀]



ソフトウェアジャパン 2011 参加者への注意事項

- 当館では、ご利用の皆様の安全をできる限り確保するため、緊急地震速報装置が設置されております。気象庁から緊急地震速報が発信されましたら地震の到着時間を館内にお知らせする放送が入りますのであらかじめご了承ください。
- 昼食場所は pp.17~18 をご覧ください。

- 当施設は全館禁煙となっております。喫煙は2F~4Fにあるスモークングラウンジにてお願いいたします。
- 当施設へのご飲食のお持込はご遠慮ください。
- 施設内では、ソフトウェアジャパン 2011 のネームタグを携帯いただきますようお願いいたします。
- 手荷物、PC、貴重品等は各自で管理していただきますようお願いいたします。

サイバー・フィジカル・システム —クラウドに組み込まれる実世界—

メインセッション プログラム (9:30 ~ 17:50) [会場：大ホール]

9:30 ~ 9:35	オープニング／ITフォーラムの紹介
9:35 ~ 12:45	第1セッション：キーノートセッション
9:35 ~ 10:30	招待講演 (1)：サイバーフィジカルと情報融合炉 喜連川優 (東京大学 生産技術研究所 教授)
10:35 ~ 11:15	招待講演 (2)：スマートプラネットの目指す世界 岩野和生 (日本アイ・ビー・エム(株) 未来価値創造事業 執行役員)
11:20 ~ 12:00	招待講演 (3)：大量センサデータから、社会の問題を解決するサイエンスが生まれる 矢野和男 ((株)日立製作所 基礎研究所 主管研究長, 人間・情報システムラボ長)
12:05 ~ 12:45	招待講演 (4)：低炭素都市のシミュレーション 山形与志樹 ((独)国立環境研究所 地球環境研究センター 主席研究員)
12:45 ~ 13:45	お昼休み
13:45 ~ 15:30	第2セッション：パネルセッション「サイバー・フィジカル・システムの未来」
司 会：丸山 宏 (一般社団法人 情報処理学会 技術応用運営委員会 委員長) パネリスト：喜連川優 (東京大学 生産技術研究所 教授) 岩野和生 (日本アイ・ビー・エム(株) 未来価値創造事業 執行役員) 矢野和男 ((株)日立製作所 基礎研究所 主管研究長, 人間・情報システムラボ長) 山形与志樹 ((独)国立環境研究所 地球環境研究センター 主席研究員)	
15:45 ~ 17:45	第3セッション：ザ・ジャパンソフトウェアセッション
15:45 ~ 15:50	ソフトウェアジャパンアワード 表彰式
15:50 ~ 16:45	招待講演 (1)：クラウドが拓くカーナビゲーションの未来 —次世代カーナビ「CAR NAVITIME」— 大西啓介 ((株)ナビタイムジャパン 代表取締役社長)
16:50 ~ 17:45	招待講演 (2)：次世代の天気予報 石橋知博 ((株)ウェザーニューズ 取締役)
17:45 ~ 17:50	クロージング

懇親会 (18:00 ~ 20:00) [会場：2F 福寿] Sponsored by デル株式会社

セッション終了後、皆様の情報交換・親睦を深める場といたしまして懇親会を開催いたしますので、ぜひご参加ください。
懇親会参加費：無料

ITフォーラムセッション

13：30～17：45 会場 2F 桃源	サービスサイエンスフォーラム × JUAS（社）日本情報システム・ユーザ協会 「サービスの価値を高めるサービスサイエンス」
【セッション概要】 前回のソフトウェアジャパン 2010 に引き続き今回も JUAS（日本情報システム・ユーザー協会）とフォーラムを共催いたします。今年のフォーラムのテーマは、サービスサイエンスを駆使することにより、「サービスビジネス」を成功させ、儲かるビジネスに組み上げるための論理を探索することです。まず講演では、「狩野モデルを応用して、コンタクトセンターのサービス品質を改善した実践例」「『オオクワガタのブリーダー』という趣味の世界にサービスサイエンスとツイッターを組み込んだ実験」「サービスビジネスの売上を構成する要素をモデル化し、どうすればサービスビジネスを成功させられるのか」を話します。パネルディスカッションは、これらの講演と会場からの意見や質問でディスカッションを進めていきます。	
13：30～14：15	講演 1：コンタクトセンターは変革期を迎えている 田口 浩（（株）東京海上日動コミュニケーションズ 執行役員）
14：20～15：05	講演 2：サービスは買う前に体感できる ～ twitter の活用で広がるサービスサイエンスの世界～ 柴崎辰彦（富士通（株）SBM 変革推進室 プロジェクト部長）
15：10～15：55	講演 3：サービスサイエンスで「サービスビジネス」を成功させる 諏訪良武（ワクコンサルティング（株） 常務執行役員）
16：10～17：45	パネル討論：サービスの価値を高めるサービスサイエンス 司 会：門倉純一（一般社団法人 CRM 協議会 理事） パネリスト：田口 浩（（株）東京海上日動コミュニケーションズ 執行役員） 柴崎辰彦（富士通（株）SBM 変革推進室 プロジェクト部長） 佐々木真美（（株）WOWOW コミュニケーションズ 経営戦略本部 WOWCOM College Div. Div. 長） 河村郁太郎（日本ユニシス（株） サービス企画部 担当室長） 諏訪良武（ワクコンサルティング（株） 常務執行役員）

13：30～15：30 会場 2F 福寿	コンタクトセンターフォーラム 「新時代に臨む高付加価値型コンタクトセンターへの変革」
【セッション概要】 環境変化のスピードが速く、日常化しつつある中、お客様は知らないことはないと言われ、消費者が最も力を持つ時代に入っている。他方、供給側からは、お客様自身のニーズも多様化し分りにくくなっており、従来型マーケティングの限界性も指摘されている。そのような中で、お客様と直接触れ合うことができ時に本音を聞き出せるコンタクトセンターの活用が大きく変わろうとしている。本セッションでは、コンタクトセンターを通じてお客様の実像をより深く捉えることで、コンタクトセンターの業務をより付加価値の高いものに変革する取組みを 2 件ご紹介する。	
13：30～13：35	オープニング
13：35～14：30	講演 1：「消費者の時代」に求められる新たなカスタマーサポート・サービスモデルへの取り組み 増田由美子（（株）消費者の声研究所 代表取締役）
14：35～15：30	講演 2：「顧客の事前期待を超えるセンター再生の道のり」—サービスサイエンスの活用— 佐々木真美（（株）WOWOW コミュニケーションズ 経営戦略本部 WOWCOM College Div. Div. 長）

13：30～15：30 会場 2F 平安	IPA/SEC（独）情報処理推進機構 ソフトウェア・エンジニアリング・センター 「非機能要求とシステム設計 —安全・安心な CPS 構築に向けて—」
【セッション概要】 サイバー・フィジカル・システム（CPS）に関する検討の進展に伴い、ソフトウェアの役割が一層高まっている。特に、非機能要求／要件については、これまで以上にその重要性が認識されてきた。まず、システムの性能、信頼性、セキュリティ、保守性・拡張性等の非機能要求について漏れなく網羅的に示し、関係者間で合意することが必要である。また、これら非機能要求に基づき、システム・アーキテクチャを適切に設計することが求められる。特に、セキュリティ要求を的確に反映したシステムを系統的に構築する技術は、CPS の発展には欠かせない。本セッションでは、安全・安心な CPS 構築に向けた、非機能要求とシステム設計に関する IPA の取り組みの一端を紹介する。	
13：30～14：10	講演 1：非機能要求を決めきる —システム基盤の非機能要求を漏れなく決める— 柏木雅之（（独）情報処理推進機構 ソフトウェア・エンジニアリング・センター エンタプライズ系プロジェクト 研究員）
14：10～14：50	講演 2：非機能要求からアーキテクチャへ—アーキテクチャの意思決定に影響する NFR の見極め— 大嶽隆児（日本アイ・ビー・エム（株）技術統括, AIS, GBS 事業部 IBM Distinguished Engineer/IPA/SEC 非機能要求とアーキテクチャ分析 WG 委員）
14：50～15：30	講演 3：セキュリティを作り込む —セキュリティ機能を体系的に設計・実装する— 小林偉昭（（独）情報処理推進機構 セキュリティセンター 情報セキュリティ技術ラボラトリー長）

13：30～15：30 会場 2F 瑞雲	高度 IT 人材育成フォーラム 「高度 IT 資格制度の現状と展望」
【セッション概要】情報処理学会 IT プロフェッショナル委員会では、情報処理技術者のプロフェッションの確立を通じてその社会的地位の向上を図るとともに、我が国において情報処理技術が魅力ある分野として認識されるようにするための諸施策の検討を行っている。その一環として、高度 IT 人材資格制度の試案作成を進めている。試案では、IT スキル標準に準拠した資格制度とすること、および、国際的に通用する資格とすることを基本的な方針としている。一方、IFIP（情報処理国際連合）は、IP3（International Professional Practice Partnership）という組織を設立し、各国の情報処理技術者資格制度の統一化を推進している。IP3 では ISO/IEC 17024（適合性評価—要員の認証を実施する機関に対する一般的要求事項）や同 24773（ソフトウェア技術者認証）のスキームに基づく資格制度の構築を要求している。また、昨年、政府の IT 戦略本部から発表された i-Japan 戦略 2015 の中にも「高度デジタル人財の認定・認証」が盛り込まれている。本セッションでは、高度 IT 人材資格制度に関する検討状況を報告するとともに、資格制度のあり方やその実現に向けた課題などについて議論を行う。	
13：30～13：50	講演 1：情報処理学会における高度 IT 人材資格制度の検討状況 旭 寛治（一般社団法人 情報処理学会 IT プロフェッショナル委員会 委員長／元（株）日立テクニカルコミュニケーションズ 代表取締役）
13：50～14：30	講演 2：IT 分野におけるプロフェッショナルコミュニティの形成と国際的に通用する資格制度の構築に向けて 宮沢修二（（株）ラーニング・アーキテクチャ研究所 代表取締役社長）
14：30～15：30	パネル討論 司 会：掛下哲郎（佐賀大学／高度 IT 人材育成フォーラム代表） パネリスト：旭 寛治（一般社団法人 情報処理学会 IT プロフェッショナル委員会 委員長／元（株）日立テクニカルコミュニケーションズ 代表取締役） 宮沢修二（（株）ラーニング・アーキテクチャ研究所 代表取締役社長） 田中久也（（独）情報処理推機構 IT 人材育成本部 本部長） 高橋邦明（一般社団法人 ガバナンスアーキテクト機構 専務理事）

13：30～15：30 会場 2F 蓬萊	先端 IT 活用推進コンソーシアム 「コンテキストがオープン・ガバメントを具現化する —防災情報の個人化に関する研究事例—」
【セッション概要】先端 IT 活用推進コンソーシアム（AITC）は、2010 年 9 月に XML コンソーシアムの後継団体として設立されました。AITC では、活動対象の 1 つとしてコンテキスト・コンピューティング（CC）を取り上げ、公共機関が提供するデータを個人のコンテキストとリンクさせることで、「個々へのサービス」にならないかという観点から「オープン・ガバメント」のあり方を研究しています。今回は、実証過程の 1 事例として、XML コンソーシアム時代に技術協力し策定した「気象庁防災情報 XML」を取り上げ、気象庁にもご協力いただき進めている研究の一端を紹介いたします。気象庁が発表する防災情報は、公共に配布される情報でありながら、住民一人一人の命を守るための個別行動を計画できるものであるべきです。コンテキストとリンクさせることで、防災情報が我が事と思える情報になるか、また、コンテキスト・コンピューティング（CC）は未来の知識社会にどうかかわるのか、最新の考察もご紹介いたします。	
13：30～15：30	講演者：和泉憲明（先端 IT 活用推進コンソーシアム CC 研究部会サプリーダ／産業技術総合研究所）
	講演者：小林 茂（先端 IT 活用推進コンソーシアム CC 研究部会メンバ／日本ユニシス）
	講演者：田原春美（先端 IT 活用推進コンソーシアム 副会長／ドリーム IT21）
	講演者：牧野友紀（先端 IT 活用推進コンソーシアム CC 研究部会リーダ／日本ユニシス）
	講演者：湯本正典（先端 IT 活用推進コンソーシアム CC 研究部会サプリーダ／日立ソリューションズ）

15：45～17：45 会場 2F 平安	IT ダイバーシティフォーラム 「女性たちが知恵と力を育むコミュニティ活動」
【セッション概要】活躍する女性が増加する一方、身近に同じような悩みを乗り越えた経験をもつ女性が少ないのも現実である。企業の管理職に占める女性の割合は 5～8%、情報処理学会の女性会員も 6%程度となっており、企業戦略として女性コミュニティを作る動きも進んでいる。本フォーラムでは、企業の枠を超えて女性たちの手で運営されているコミュニティ活動を取り上げる。実際に活動されている講演者に、活動内容、やりがい、得たこと等を紹介していただき、コミュニティへ参加したい人や活性化したい人へのヒントを探る。コミュニティに関心のある方にとって、本フォーラムそしてシンポジウム後の懇親会が、情報交換と新たなネットワークの場になることを期待しています。	
15：45～16：15	講演 1：日本で開催された最近の国際的女性ネットワーク会合 —APEC 女性リーダーズネットワーク会合と APEC 女性起業家サミット 國井秀子（リコー IT ソリューションズ(株) 取締役会長執行役員／2010 APEC WLN 会合実行委員会副委員長）
16：15～16：45	講演 2：企業・職種の枠を超えたネットワーク—日本女性技術者フォーラム（JWEF） 森 茂子（日本アイ・ビー・エム(株) ソフトウェア開発研究所 課長 ソフトウェア・アーキテクト／日本女性技術者フォーラム（JWEF）運営委員）
16：45～17：15	講演 3：J-Win（ジャパン・ウィメンズ・イノバイティブ・ネットワーク）の活動紹介 松山科子（ソニー(株) システム技術研究所 統括課長、シニアリサーチャー）
17：15～17：45	講演 4：育児休業後のキャリアを支えるネットワーク 山口理栄（育児後コンサルタント）

15：45～17：45 会場 2F 瑞雲	JEITA（社）電子情報技術産業協会 「クラウドの需要動向と 2030 年理想の未来像」
【セッション概要】今、お客様の期待するクラウドとは何か。人々が理想とする未来像はどういったものか。これから我々は何に注目していけばよいのか。そこに IT はどう絡み、どう融合していくのか。JEITA で行ったクラウドに関するユーザ調査とユーザ視点での未来予想ヒアリング調査結果等を踏まえながら、これからの時代のありようを語る。	
15：45～16：15	講演 1：ユーザ調査から見たクラウドの需要動向 石橋賢一（（株）日立製作所 経営戦略室 担当部長）
16：15～16：45	講演 2：クラウドによる未来予想 —2030 年どんな未来になってほしい？— 小林千早都（日本ユニシス（株）政策推進センター センター長補佐）
16：45～17：45	対談：ルールはクラウドが決める？！ 向谷 実（（株）音楽館 代表取締役） 小林千早都（日本ユニシス（株）政策推進センター センター長補佐）

15：45～17：45 会場 2F 蓬莱	JISA（社）情報サービス産業協会 「要求工学への実践的な取り組み」
【セッション概要】当セッションでは昨年度に引き続き、要求工学への実践的な取り組みを紹介する。（社）情報サービス産業協会では、平成 18 年度より要求工学 WG を設置し、特に平成 20 年度より要求工学知識体系（REBOK：Requirements Engineering Body Of Knowledge）の開発に力を入れている。すでに昨年度 REBOK の概要について説明したが、本年度いよいよ第 1 版公表に向け、各知識領域の内容について簡単に触れるとともに、知識体系の活用方法を説明する。また情報サービス事業者のシステム開発に資する取り組みとして、（株）NTT データの上流プロセスへの取り組みを紹介する。同社ではお客様の変革パートナーとして、「上流」「つくり」「活用」の 3 つのサイクルをまわしていくことで、新たな価値提供の実現を目指している。	
15：45～16：45	講演 1：要求工学知識体系（REBOK）とその現場への応用 青山幹雄（南山大学 情報理工学部 ソフトウェア工学科 教授）
16：45～17：45	講演 2：NTT データの上流プロセスの取り組み 斎藤 忍（（株）NTT データ技術開発本部 ソフトウェア工学推進センタ シニアエキスパート）

IT フォーラムセッション（展示）

9：30～17：30 会場 5F 大ホール前	ユニバーサルデザイン協創フォーラム 「見えなくても中身がわかる!! バーコードを用いた視覚障害者向け商品案内」
【セッション概要】相方が仕事のあいだ留守番しているとき、あるいはひとり暮らしの方、下宿している学生さん！ まとめ買いしてきた商品や、棚の奥にしまってた缶詰め、いままさに空けようとしているペットボトルの中身、インスタントラーメンの味が、空ける前になんだか分かったら、生活が楽しくないと思いませんか。バーコードを読み取って、視覚に障害のある人に音声で知らせるプロジェクトをはじめ、と聞いたなら、「どこにバーコードが印刷されているか分からないだろうから、ひとりで読むのは無理じゃないの？」と思いますよね。会場にデモソフトを用意していますので、視覚に障害のある方もない方もぜひいらして体験してみてください。また、腕に自信のある方、ぜひフォーラムに参加して、ソフト開発にご協力ください。	

サイバー・フィジカル・システム —クラウドに組み込まれる実世界—

ITが社会インフラに組み込まれていくにつれ、物理世界とサイバー世界を統合的に扱うパラダイム、「サイバー・フィジカル・システム」の考えが求められています。この分野は特に米国において、NSFが年間3,000万ドルなど政府が大きな予算をつけて研究開発を始めているのはよく知られているところです。日本でも、自動車や家電などの主要産業が、IT、特にクラウド基盤との連携を強めていますし、環境・交通・医療などの社会インフラの構築において、物理世界とサイバー世界の融合が喫緊の課題になってきています。これに伴い、文部科学省 第4期科学技術基本計画策定の中でも重点課題として検討されています。

このような背景から、ソフトウェアジャパン2011では、「サイバー・フィジカル・システム —クラウドに組み込まれる実世界—」と題して、日本のソフトウェア産業がこの領域でどのような貢献ができるのか、議論してまいりたいと思います。前々回のソフトウェアジャパン2009「クラウド」、前回のソフトウェアジャパン2010「サステナブル（持続可能性）」の議論を発展させた議論になると期待しています。

一般社団法人 情報処理学会

メインセッション [会場：5F 大ホール]

総司会



近山 隆（東京大学 大学院工学系研究科電気系工学専攻 教授／一般社団法人 情報処理学会ソフトウェアジャパン2011実行委員会 委員長）

【略歴】1977年東京大学工学部計数工学科卒。1982年同工学系研究科情報工学専門課程博士課程修了、工学博士。同年（株）富士通に入社し、（財）新世代コンピュータ技術開発機構に出向、第五世代コンピュータプロジェクトの研究開発に従事。1995年東京大学工学系研究科助教授、1996年同教授。以降学内の異動を経て2008年より現職。プログラミング言語、並列分散処理、機械学習などに興味をもつ。

オープニング／ITフォーラム紹介 [9:30～9:35]



丸山 宏（一般社団法人 情報処理学会 技術応用運営委員会 委員長）

【略歴】1983年東京工業大学大学院理工学研究科修士課程修了。同年日本アイ・ビー・エム（株）入社。人工知能、自然言語処理、機械翻訳などの研究に従事。1995年京都大学より博士（工学）授与。1996年米IBMソフトウェア事業部において、インターネット技術の評価。以降、XMLやWebサービスの研究開発・標準化に従事。1997～2000年東京工業大学情報理工学研究科客員助教授、2003年アイ・ビー・エム・ビジネスコンサルティング・サービスへ出向。2006～2009年日本アイ・ビー・エム（株）東京基礎研究所所長。

第1セッション：キーノートセッション [9:35～12:45]

招待講演(1)：サイバーフィジカルと情報融合炉 [9:35～10:30]

【講演概要】サイバーフィジカルシステム、情報爆発、情報大航海、IOT, smarter Planet等表現はいろいろとあり、詳細レベルでは相違はあるものの、大局的にはおおむね方向感是一致的していると講演者は感じている。すなわち「情報爆発からの価値創出」である。文部科学省情報爆発特定領域研究プロジェクト、経済産業省情報大航海プロジェクトでの成果を含め、現時点における「by IT」の最有力領域であるサイバーフィジカルの方角感について述べる。



喜連川優（東京大学 生産技術研究所 教授）

【略歴】東京大学工学系研究科情報工学専攻博士課程修了（1983年）、工博。東京大学地球観測データ統融合連携研究機構長、東京大学生産技術研究所教授、戦略情報融合国際研究センター長。文部科学省「情報爆発」特定領域研究代表（05～10）、経済産業省「情報大航海プロジェクト」戦略会議委員長（07～09）、データベース工学の研究に従事。情報処理学会副会長（07～09）、ACM SIGMOD E. F. Codd Award（09）。

招待講演(2)：スマートープラネットの目指す世界 [10:35～11:15]

【講演概要】 IBMが2008年から提唱しているスマートープラネットは、情報技術を用いて、より良い社会・世界に貢献しようというものである。情報技術の指数関数的な進歩によって、あらゆるものがつながり、情報のやりとりをし、複雑な系を作りだしている。そのため環境、資源、都市などのさまざまな問題が、全体系の把握なしでは解決できなくなっている。このとき、ITの世界で培ってきたさまざまな概念や技術が応用できるようになってきた。たとえば、サービスレベル管理、社会サービスインフラを支える情報インフラ、さまざまなデータの管理、分析、クラウドコンピューティングなどに代表されるサービスデリバリー技術などである。あらゆるもの(森羅万象)の発するデータを集め、価値観に基づきそれらの関係を可視化し、分析し、系に影響を与える。つまり、“社会生態系”や“ビジネス生態系”を価値観に基づいて制御していくのである。本講演ではこのようなスマートープラネットの考えや事例やアーキテクチャなどを紹介する。



岩野和生 (日本アイ・ビー・エム (株) 未来価値創造事業 執行役員)

【略歴】 日本アイ・ビー・エム (株) 執行役員 未来価値創造事業 担当。1975年東京大学理学部数学科卒業後、日本アイ・ビー・エム (株) 入社。1987年米国Princeton大学Computer Science学科よりPh. D 取得。1995年から2000年まで東京基礎研究所 所長、その後、米国ワトソン研究所を経て、2002年より先進事業 (Emerging Business)、2004年より大和ソフトウェア開発研究所 所長を担当し、2009年より現職。東京工業大学、筑波大学客員教授。情報処理学会フェロー、日本学術会議連携会員。IEEE、ACM、SIAM会員。

招待講演(3)：大量センサデータから、社会の問題を解決するサイエンスが生まれる [11:20～12:00]

【講演概要】 20世紀に人類は、相対論により時空を理解し、量子論によりミクロの法則を理解し、宇宙論により万物の起源を理解し、生命科学により命の起源を理解した。これらはそれぞれ、原子力、エレクトロニクス／IT、宇宙工学、医療という技術革新を生み、世界を変えてきた。21世紀は、この流れの先に、「人間と社会」の科学が創生され、これから「社会の問題を解決する技術」が生まれる。「サイバー・フィジカル・システム」は、この新しい科学を可能にする技術と捉えるべきである。ITはこれまで利便性や効率化の道具だった。今後は、科学と手を組んで価値をもつ時代になる。社会という、自由意志や文化を伴う対象に、科学は成立するのか、と疑問がわく。実は、最新技術「ビジネス顕微鏡」による20万日超の大量の人間社会のデータは、この疑問に答え、社会の定量科学を急速に発展させ、企業や個人の変革を強力に推進してきた。これを事例から説き起こし、今後のビジョンを有識者が提唱した「直島宣言」を紹介する。



矢野和男 ((株) 日立製作所 基礎研究所 主管研究長、人間・情報システムラボ長)

【略歴】 1984年早大物理修士卒。日立製作所入社。91年アリゾナ州立大にて共研に従事。93年早大より工博授与。入社以来、半導体新デバイス／回路の研究、特に世界初の単一電子メモリの室温動作、エネルギー最小の論理回路 (CPL) の提案、論理構造最小化CADの開発と事業化、SHモバイルプロセッサなどのシステムLSIの研究部長、センサネット戦略プロジェクトのリーダーを歴任。現在、人間・社会の行動を計測、これを科学的解析し、変革する「ビジネス顕微鏡」を開発し、新事業を起業した。また20万人日超の人間データを活用する「ワールドシグナルセンタ」を立ち上げ、初代センタ長に就任。基礎研究所主管研究長、人間情報システムラボ長。IEEE Fellow、電子情報通信学会、応用物理学会会員。IEDM、DAC、ASSCC、ASP-DAC、IPSN/SPOTS、EmNetの学会委員を歴任。2009VLSI回路Symposium大会委員長など学会役員を歴任。1994 IEEE Paul Rappaport Award、1996 IEEE Lewis Winner Award、1998 IEEE Jack Raper Award、Most Promising Scientists Award of 2007 Ettore Majorana International School on Mind, Brain, and Educationを受賞。

招待講演(4)：低炭素都市のシミュレーション [12:05～12:45]

【講演概要】 IPCCの新しいシナリオでは、脱温暖化社会を目指して、大気中の温室効果ガスを安定化する都市システムに関する検討が始まりつつある。世界の人口の大部分が都市に集中することが予想される2050年にむけて、途上国を含めて、都市を持続可能なたちで低炭素化することがきわめて重要な課題となっている。そこで、本講演では、IPCCでのあらたな温暖化シナリオ・シミュレーション分析の概要を紹介するとともに、近年、世界各地で急速に波及しつつあるスマートシティ（モデル）都市での実証研究・開発例の取り組みをレビューしつつ、我々が現在研究に取り組んでいるグローバルな土地利用（都市化）シナリオや東京都市圏でのシミュレーション研究の成果を紹介し、都市における土地利用—交通—スマートグリッドを合わせたシステムをシミュレーションする新たな技術開発の方向性について議論する。



山形与志樹 ((独) 国立環境研究所 地球環境研究センター 主席研究員)

【略歴】 1985年東京大学教養学部広域科学科卒業。学術博士。国立環境研究所において、主任研究員、総合研究官等を経て、2006年より、地球環境研究センター主席研究員として、地球温暖化リスク評価研究プロジェクトに取り組む。専門は、応用システム分析。この間、IPCC特別報告書（土地利用）主任執筆者、日本学術会議連携会員、JST脱温暖化領域アドバイザー、Climate Policy, Applied Energy誌編集委員、東京大学・北海道大学等にて講義を担当。

第2セッション：パネルセッション [13:45～15:30]

パネル討論：サイバー・フィジカル・システムの未来 [13:45～15:30]

【討論概要】実世界とITを緊密に統合するCyber-Physical Systems(CPS)は、スマートグリッドやスマートシティなどの試みを通して、社会システムを変革していく切り札として期待されている。このパネルディスカッションでは、産官学でCPSにかかわっている第一線の方々に、CPSによる社会システム変革を実現するために、IT産業が担うべき役割は何か、その課題は何か、について議論していただく。

司 会：丸山 宏（一般社団法人 情報処理学会 技術応用運営委員会 委員長）

写真・略歴は、オープニング／ITフォーラム紹介を参照。

パネリスト：喜連川優（東京大学 生産技術研究所 教授） 写真・略歴は、招待講演（1）を参照。

パネリスト：岩野和生（日本アイ・ビー・エム（株）未来価値創造事業 執行役員） 写真・略歴は、招待講演（2）を参照。

パネリスト：矢野和男（（株）日立製作所 基礎研究所 主管研究員、人間・情報システムラボ長）

写真・略歴は、招待講演（3）を参照。

パネリスト：山形与志樹（（独）国立環境研究所 地球環境研究センター 主席研究員） 写真・略歴は、招待講演（4）を参照。

第3セッション：ザ・ジャパンソフトウェアセッション [15:45～17:45]

ソフトウェアジャパンアワード 表彰式 [15:45～15:50]

受賞講演（1）：クラウドが拓くカーナビゲーションの未来 一次世代カーナビ『CAR NAVITIME』— [15:50～16:45]

【講演概要】近年ナビゲーションサービス市場は、データ通信の高速化や、先日打ち上げられた準天頂衛星「みちびき」などの影響で、人々の関心は急速に広がっています。ナビタイムジャパンは2000年3月設立以来「ナビゲーションエンジンで世界のデファクトスタンダードを目指す」という志のもと、ユーザのさまざまなニーズに対応しながら成長してまいりました。さまざまな交通手段を組み合わせ出発地から目的地までドアtoドアで最適なルートを検索する「NAVITIME」。そして今年8月には次世代カーナビ「CAR NAVITIME」を発売しました。「CAR NAVITIME」は、これまでナビタイムジャパンが培った技術を集結した、通信機能付きカーナビゲーションです。通信モジュールを内蔵しているので、常にリアルタイムの情報を取得することができます。本講演では、ナビタイムジャパンのこれまでや、今後の展望についてお話させていただきます。



大西啓介（（株）ナビタイムジャパン 代表取締役社長）

【略歴】上智大学理工学部卒。1993年に大学院を卒業後、祖父が創業した大西熱学に入社。環境試験装置のソフトウェア開発に携わる。1996年、大学の後輩だった菊池とともに、社内ベンチャーとして経路検索エンジンビジネスを立ち上げる。2000年3月に大西熱学から独立し、ナビタイムジャパンを設立。代表取締役社長兼CEOに就任。

受賞講演（2）：次世代の天気予報 [16:50～17:45]

【講演概要】近年、気象への関心は大いに高まっています。2010年は記録的な猛暑、竜巻、豪雨などとともに、突発的かつ局地的に雷雨をもたらす「ゲリラ雷雨」が各地で発生しました。それは従来の観測網では予測不可能といわれていた現象です。そんなゲリラ雷雨の被害を軽減するため、ウェザーニューズは全国22万人を超えるサポーター（有料会員）に「ゲリラ雷雨防衛隊」に参加していただき、各人の「五感」でとらえた気象情報を、携帯電話で報告してもらいました。その情報と、当社が全国40カ所に独自に設置した最新小型観測レーダーによる監視体制をとった結果、たとえば東京都ではゲリラ雷雨発生を事前に知る「捕捉率」が、昨年に引き続き9割を超えました。最新テクノロジーと人の五感が融合したシステムが、不可能といわれたゲリラ雷雨をとらえることに成功したのです。従来のパラダイムでつかめない気象を人センサでどうとらえたか、新しい天気予報のデザインをご紹介します。



石橋知博（（株）ウェザーニューズ 取締役）

【略歴】1998年3月中央大学理工学部情報工学科卒。1998年4月日本ビュレット・パッカード（株）入社。2000年10月（株）ウェザーニューズ入社 営業本部。2003年8月（株）ウェザーニューズ モバイルサービスグループリーダー。2006年12月（株）ウィズステーション取締役。2007年11月（株）ウィズステーション代表取締役（現）。2008年8月（株）ウェザーニューズ取締役（BtoS事業統括主責任者）（現）。

クロージング [17:45～17:50]

IT フォーラムセッション [会場：2F 各会場]

サービスサイエンスフォーラム × 日本情報システム・ユーザ協会 「サービスの価値を高めるサービスサイエンス」 [会場 2F 桃源]

【セッション概要】 前回のソフトウェアジャパン2010に引き続き今回もJUAS(日本情報システム・ユーザー協会)とフォーラムを共催いたします。今年のフォーラムのテーマは、サービスサイエンスを駆使することにより、「サービスビジネス」を成功させ、儲かるビジネスに組み上げるための論理を探索することです。まず講演では、「狩野モデルを応用して、コンタクトセンターのサービス品質を改善した実践例」「『オオクワガタのブリーダー』という趣味の世界にサービスサイエンスとツイッターを組み込んだ実験」「サービスビジネスの売上を構成する要素をモデル化し、どうすればサービスビジネスを成功させられるのか」を話します。パネルディスカッションは、これらの講演と会場からの意見や質問でディスカッションを進めていきます。



司会：門倉純一（一般社団法人CRM協議会 理事）

【略歴】 日本アイ・ビー・エム入社後、電子系のCAD/CAMなどのアプリケーション分野の営業に従事、IBM初のVANサービス営業を経て、通信とコンピュータを融合したシステムの営業推進を担当。80年代後半からはコールセンターを中心に担当し、その発展形としてビジネスとしてのCRM部門立ち上げに参加。当部門の責任者を経て現在CRMの営業支援を担当。1970年日本アイ・ビー・エム入社、1980年代後半より、CTI、IVRなどの製品を担当。以後コールセンタービジネスを担当。1996年頃より、CRMビジネスの担当。1999年CRMのマーケティング、営業支援2001年CRM協議会参加。

講演(1)：コンタクトセンターは変革期を迎えている [13:30～14:15]

【講演概要】 リーマンショック以降、食品や製品の安全に関する問題などにより、顧客の購買行動が変化してきています。それまでは、自身の経験により購買品の決定をしていましたが、現在では自身の経験だけでなく、インターネット上の掲示板やSMSなどの口コミや情報が顧客の購買品の決定に影響を与えるようになってきています。この変化は日本だけでなく、グローバルな変化でもあります。顧客の購買行動の変化に伴い、直接顧客と対応を行うコンタクトセンターの活動も変革が必要な時期が来ています。これからのコンタクトセンターが担う役割について発表を行います。



田口 浩（(株)東京海上日動コミュニケーションズ 執行役員）

【略歴】 1992年に東京海上日動コミュニケーションズ入社後から現在まで、一貫してコンタクトセンター部門に従事。新規センター立ち上げから、CTI基盤構築、研修、運用マネジメントと幅広く経験し、現在は、コンタクトセンター部門、研修部門の統括責任者として従事。最近では、COPCジャパンユーザーグループ代表として国際会議に参加しグローバルで活躍する最先端のコンタクトセンターとの情報交換や交流を行っている。また、(社)日本コンタクトセンター教育検定協会にてCMBOKの作成や、同試験向けテキストの編集委員を担当。

講演(2)：サービスは買う前に体感できる —twitterの活用で広がるサービスサイエンスの世界— [14:20～15:05]

【講演概要】 インターネットを経由したサービス提供における課題は、顔の見えないお客様とのリレーションの構築にある。サービスサイエンスのフレームワークを活用し、従来のメディアに加えてtwitterを活用することで事前期待のコントロールを実現した身近な事例を紹介。サービスサイエンスを具体的なイメージで理解したい方に最適なプログラムです。



柴崎辰彦（富士通(株) SBM変革推進室 プロジェクト部長）

【略歴】 1987年立教大学卒業。専攻は、消費者心理学、産業心理学。同年富士通(株)に入社し、企業内ネットワークシステムや画像システムのマーケティングに従事。1996年より、同社のCRMビジネスの立ち上げに参画し、顧客サービスと顧客満足度(CS)の関わりに強い関心を持つ。現在は、同社のソリューションビジネス全般の企画業務に従事し、次世代のソリューションビジネスの立ち上げに取り組む。

講演(3)：サービスサイエンスで「サービスビジネス」を成功させる [15:10～15:55]

【講演概要】 サービスビジネスの売上を構築するサービス価格や顧客数、年間リピート数などに関係する要素(サービスバリュー、顧客満足、ビジネスモデル、サービスコンテンツなど)を明確にし、それらを分かりやすくモデル化します。そして、どうすればサービスビジネスを成功させられるか、目指す売上目標をどうすれば実現できるかを効果的に検討できるロジックを解説します。



諏訪良武（ワクコンサルティング(株) 常務執行役員）

【略歴】 1971年オムロン入社。85年通産省のΣプロジェクトに参加。95年情報化推進センター長。97年オムロンフィールドエンジニアリングの常務取締役として、企業変革を実践。04年OA協会からIT総合賞、コンタクトセンタアワードのマネジメント部門金賞を受賞。04年7月1日よりソフトブレン副社長。05年7月1日より独立系のコンサルタントとして活動中。サービスや顧客満足を科学的に分析(見える化)し、日本企業が課題とするサービス分野の競争力アップに必要な方法論を提唱している。

パネル討論：サービスの価値を高めるサービスサイエンス [16:10～17:45]

司 会：門倉純一（一般社団法人CRM協議会 理事） 写真，略歴は，司会を参照。

パネリスト：田口 浩（(株)東京海上日動コミュニケーションズ 執行役員） 写真，略歴は，講演（1）を参照。

パネリスト：柴崎辰彦（富士通（株）SBM変革推進室 プロジェクト部長） 写真，略歴は，講演（2）を参照。



パネリスト：佐々木真美（(株)WOWOW コミュニケーションズ 経営戦略本部 WOWCOM College Div. Div.長）

【略歴】大手テレマエージェンシーにて金融系の複数のカスタマーセンタの運用統括を担当。合併統合，24時間センタの立ち上げをはじめとした受託業務において，サービス改善，CRM構築に従事。2005年より（株）WOWOW コミュニケーションズにおいて品質管理および教育部門の責任者として現在に至る。



パネリスト：河村郁太郎（日本ユニシス（株） サービス企画部 担当室長）

【略歴】1986年日本ユニパック（現日本ユニシス）入社。金融系サイトを経て企画部門へ。1999年品質保証部門にて標準開発方法論の構築と展開。2002年よりサービスビジネスの企画に従事しサービスのメニュー化，商品化を推進。2006年テクノロジーサービス企画室長。2009年諏訪先生との出会い（JUASサービスサイエンス研究会）で刺激を受け，現在サポートサービス分野へのサービスサイエンス適用を模索中。

パネリスト：諏訪良武（ワクコンサルティング（株） 常務執行役員） 写真，略歴は，講演（3）を参照。

コンタクトセンターフォーラム

「新時代に臨む高付加価値型コンタクトセンターへの変革」 [会場 2F 福寿]

【セッション概要】環境変化のスピードが速く，日常化しつつある中，お客様は知らないことはないと言われ，消費者が最も力を持つ時代に入っている。他方，供給側からは，お客様自身のニーズも多様化し分かりにくくなっており，従来型マーケティングの限界性も指摘されている。そのような中で，お客様と直接触れ合うことができ時に本音を聞き出せるコンタクトセンターの活用が大きく変わろうとしている。本セッションでは，コンタクトセンターを通じて お客様の実像をより深く捉えることで，コンタクトセンターの業務をより付加価値の高いものに変革する取り組みを2件ご紹介する。



司会：宮崎義文（イー・パフォーマンス・ネクスト 代表）

【略歴】大手通信メカにて，デジタル電子交換機の開発に従事。その後，日本アイ・ビー・エムにて，日本初の銀行系テレホンバンキング導入を始めとし，銀行・生保・損保・通信・製造・流通業界を中心に20以上のコンタクトセンター／CRMの構築プロジェクトに従事。IBM ビジネスコンサルティング，IBM ビジネスアウトソース部門にて，コンサルティング領域にとどまらずセンタの構築・運用も実践する。2009年より，イー・パフォーマンス・ネクスト代表 コンサルティング活動中。

講演（1）：「消費者の時代」に求められる新たなカスタマーサポート・サービスモデルへの取り組み [13:35～14:30]

【講演概要】業態の垣根を越えたデジタル化の進展は，企業のカスタマーサポートやサービスの構造を根本から変えつつある一方で，受け手の生活者の多様な価値観・デジタル世代とアナログ世代のコミュニケーションスタイルやITリテラシーのギャップなどコンタクトセンターでもサービス提供側と受け手のギャップは大きく，これまでの企業論理でのカスタマーサポートでは越えられないカスタマーサポート・サービスモデルの変革期にきている。このセッションでは，業務機能別のカスタマーサポートから受け手の特性・生活スタイルに着目した顧客との価値協創型の新たなカスタマーサポートのあり方を考察し，シニアコンシェルジュサービスを中心にその取り組みも紹介する。



増田由美子（(株)消費者の声研究所 代表取締役）

【略歴】中央大学法学部卒業。大手テレマ会社で銀行・保険を中心とするカスタマーセンタ，ダイレクトマーケティングセンタ構築コンサルティングおよび稼働センタ運用受託業務の統括を担当後，グローバルIT企業でCRM/BIコンサルティングクラスパートナーとして稼働。2009年6月に独立。現在（株）消費者の声研究所代表。2003年より国立大学法人琉球大学非常勤講師。（財）日本消費生活アドバイザーコンサルタント協会（NACS）会員。

講演(2)：「顧客の事前期待を超えるセンター再生の道のり」—サービスサイエンスの活用—

[14:35～15:30]

【講演概要】顧客接点を担うコンタクトセンターの役割は今や企業の生命線といっても過言ではありません。コンタクトセンターにおける品質はもはや顧客満足だけにとどまらず、企業収益にも大きく影響をあたえています。サービスサイエンスを活用し、サービスを定義する、サービスを深く理解することにより、品質向上の具現化が可能になり、コンタクトセンターの価値が高まります。“顧客の事前期待の把握”による顧客満足の向上とセンターミッションの達成への取り組みを紹介します。



佐々木真美 ((株)WOWOW コミュニケーションズ 経営戦略本部 WOWCOM College Div. Div. 長)

【略歴】大手テレマエージェンシーにて金融系の複数のカスタマーセンタの運用統括を担当。合併統合、24時間センタの立ち上げをはじめとした受託業務において、サービス改善、CRM構築に従事。2005年より(株)WOWOW コミュニケーションズにおいて品質管理および教育部門の責任者として現在に至る。

情報処理推進機構 SEC

「非機能要求とシステム設計—安全・安心なCPS構築に向けて—」 [会場 2F 平安]

【セッション概要】サイバー・フィジカル・システム(CPS)に関する検討の進展に伴い、ソフトウェアの役割が一層高まっている。特に、非機能要求/要件については、これまで以上にその重要性が認識されてきた。まず、システムの性能、信頼性、セキュリティ、保守性・拡張性等の非機能要求について漏れなく網羅的に示し、関係者間で合意することが必要である。また、これら非機能要求に基づき、システム・アーキテクチャを適切に設計することが求められる。特に、セキュリティ要求を的確に反映したシステムを系統的に構築する技術は、CPSの発展には欠かせない。本セッションでは、安全・安心なCPS構築に向けた、非機能要求とシステム設計に関するIPAの取り組みの一端を紹介する。



司会：山下博之 ((独)情報処理推進機構 ソフトウェア・エンジニアリング・センター エンタプライズ系プロジェクトリーダー)

【略歴】1981年京都大学大学院修士課程(情報工学)修了。同年、日本電信電話公社(現NTT)入社。以後、研究所において、通信制御処理システム、高機能通信プロトコル、分散協調処理、著作権管理、コンテンツ流通等に関する研究開発・標準化活動に従事。2003年10月に(株)NTTデータに転籍。2004～2008年、JSTに出向。2009年4月に(株)NTTデータアイ入社、同時にIPAに出向。2003年10月～2008年4月、科学技術振興調整費プログラムオフィサー、米国PMI認定PMP、情報処理学会電子化知的財産・社会基盤研究会主査、情報規格調査会SC6専門委員会委員長、IEEE、情報処理学会、電子情報通信学会各会員。

講演(1)：非機能要求を決めきる—システム基盤の非機能要求を漏れなく決める— [13:30～14:10]

【講演概要】情報システムを開発する際、受発注者の双方が要求を正確に認識するためには多大な苦勞が伴います。中でも可用性、性能、セキュリティなどの非機能要求はその認識共有が難しく、また、手段が確立していません。本講演では、システム基盤における非機能要求の段階的な選択肢を提示し、メニュー化した「非機能要求グレード」について説明します。



柏木雅之 ((独)情報処理推進機構 ソフトウェア・エンジニアリング・センター エンタプライズ系プロジェクト研究員)

【略歴】1983年茨城大学大学院修士課程(情報工学)修了。同年、富士通(株)入社。画像管理やテキスト検索等のミドルウェアの開発等を担当後、SE部門の技術支援部門で社内標準の適用・推進活動等に従事。2010年4月より、IPAに出向。非機能要求グレードや非ウォーターフォール型開発などを担当。

講演(2)：非機能要求からアーキテクチャへ

—アーキテクチャの意思決定に影響するNFRの見極め— [14:10～14:50]

【講演概要】高品質ITシステムを短期間構築するニーズにより、成功事例や参照アーキテクチャ(RA)を活用するITアーキテクトが増えている。成功事例を一般化したRAには、機能要件だけでなく、さまざまな非機能要件(NFR)の対立関係を全体最適で解決するアーキテクチャの基本パターンが複合的に含まれている。そのため、NFRの対立関係、NFRと基本パターンの因果関係、前提条件などRAの本質を理解せずに、安易に真似てITシステムを設計すると、前提条件が異なる場面や環境では全体最適のバランスが崩れ、期待したNFRを満足しないリスクがある。本講演では、IPA/SECのNFRとアーキテクチャWGで実施したRAの事例研究の紹介とアーキテクチャの意思決定に影響するNFRの見極めを考察してみる。



大嶽隆児（日本アイ・ビー・エム（株）技術統括，AIS，GBS事業部 IBM Distinguished Engineer/IPA/SEC非機能要求とアーキテクチャ分析WG委員）

【略歴】1980年新潟大学農学部（森林計測学）卒業。1981年日本IBM入社。1980年代に分散システム開発のSEを担当。1990年代にオリンピックプロジェクトのITアーキテクトを担当。2000年代にe-businessプロジェクトのリードアーキテクト、および、既存システムのアーキテクチャ分析・評価、グローバル企業のEA、BPM駆動SOA開発メソッドロジー等を担当。IBM Academy of Technology会員、IBM Distinguished Engineer、The Open Group ITAC Distinguished Certified IT Architect、IPA/SEC非機能要件とアーキテクチャ分析WG委員。

講演(3)：セキュリティを作り込むーセキュリティ機能を体系的に設計・実装するー [14:50～15:30]

【講演概要】IPAでは脆弱性関連情報の届出受付・分析・対策推進の運用をして、9月末で6,400件の届出を受け付けている。この失敗事例を分析し、再発防止のため「安全なウェブサイトの作り方」等を始め啓発資料を公開している。また、TCP/IP等のプロトコルの既知の脆弱性検証ツール提供や開発者向け脆弱性学習ツールも整備している。今後、情報家電や自動車等の組込み機器がネットワーク経由で一般消費者に利用される事例が増加することから、組込み機器開発者向けに「組込みシステムの取り組みガイド」も公開している。本講演では、ライフサイクルの視点で体系的に設計・実装さらに運用・廃棄のフェーズも考慮したセキュリティの作りこみに関する、IPAの活動について紹介する。



小林偉昭（独）情報処理推進機構 セキュリティセンター 情報セキュリティ技術ラボラトリー長）

【略歴】1970年、早稲田大学理工学部応用物理科卒業。1972年、東京工業大学理学部物理学専攻修士課程修了。同年（株）日立製作所入社。2006年情報処理推進機構セキュリティセンター出向。2008年情報処理推進機構セキュリティセンター転籍。情報セキュリティ技術ラボラトリー長として、脆弱性関連情報取扱い運用業務および組込みシステムセキュリティなどの調査・研究に従事。

高度IT人材育成フォーラム 「高度IT資格制度の現状と展望」 [会場 2F 瑞雲]

【セッション概要】情報処理学会ITプロフェッショナル委員会では、情報処理技術者のプロフェッションの確立を通じてその社会的地位の向上を図るとともに、我が国において情報処理技術が魅力ある分野として認識されるようにするための諸施策の検討を行っている。その一環として、高度IT人材資格制度の試案作成を進めている。試案では、ITスキル標準に準拠した資格制度とすること、および、国際的に通用する資格とすることを基本的な方針としている。一方、IFIP（情報処理国際連合）は、IP3（International Professional Practice Partnership）という組織を設立し、各国の情報処理技術者資格制度の統一化を推進している。IP3ではISO/IEC 17024（適合性評価-要員の認証を実施する機関に対する一般的要求事項）や同24773（ソフトウェア技術者認証）のスキームに基づく資格制度の構築を要求している。また、昨年、政府のIT戦略本部から発表されたi-Japan戦略2015の中にも「高度デジタル人材の認定・認証」が盛り込まれている。本セッションでは、高度IT人材資格制度に関する検討状況を報告するとともに、資格制度のあり方やその実現に向けた課題などについて議論を行う。



司会：掛下哲郎（佐賀大学 理工学部知能情報システム学科 准教授／高度IT人材育成フォーラム代表）

【略歴】九州大学情報工学科卒業。同博士後期課程修了。工学博士。現在、佐賀大学知能情報システム学科准教授。2001年度より学科の教育システムの構築を推進し、2003年度にJABEE認定を受けた。2008年度より高度IT資格制度およびIT専門職大学院等を対象とする認証評価機関の構築に取り組んでいる。データベースおよびソフトウェア工学を専門とする。情報処理学会、電子情報通信学会等会員。

講演(1)：情報処理学会における高度IT人材資格制度の検討状況 [13:30～13:50]

【講演概要】情報処理学会ITプロフェッショナル委員会では、2008年にIPAの協力を得て高度IT人材の資格制度を検討するためのWGを立ち上げ、翌年にはその検討結果に基づいて具体的な制度設計を行うための新たなWGを設置した。また、国際的に通用する資格制度とするため、IFIPのIP3に参加し、ボードメンバーとして活動している。IP3で規定している情報処理技術者資格はITスキル標準のレベル4に相当するが、共通キャリア・スキルフレームワークでは、レベル4の評価には情報処理技術者試験の高度試験の結果に加えて業務経歴の評価が必要とされている。制度設計WGでは、IP3参加国の制度や技術士などの既存の制度も参考にして、業務経歴の評価方法を含めた資格制度全体の設計を進めている。本講演では、ITプロフェッショナル委員会での上記取り組みの状況について報告する。



旭 寛治（一般社団法人 情報処理学会 ITプロフェッショナル委員会 委員長／元（株）日立テクニカルコミュニケーションズ 代表取締役）

【略歴】1971年（株）日立製作所入社。同社基本ソフトウェア本部長、ストレージソリューション本部長、（株）日立テクニカルコミュニケーションズ代表取締役等を歴任。1999年情報処理学会理事、2005年副会長。ITプロフェッショナル委員長、高度IT人材資格検討WG座長、歴史特別委員会委員、コンピュータ博物館実行小委員会主査、情報処理学会フェロー。

講演(2)：IT分野におけるプロフェッショナルコミュニティの形成と 国際的に通用する資格制度の構築に向けて [13:50～14:30]

【講演概要】 ITプロフェッショナルの社会的な存在が認知され、一定の社会的地位と処遇を勝ち取っていくために、いま、考え、行動しなければならないことは何かについて整理したことを紹介する。特に、企業等の組織員とは別に、自律したITプロフェッショナルとしてどのように活動すべきかについて触れる。その上で、産官学個（産業、政府、学術、プロ個人）の連携の在り方についても提言したい。また、最近、プロフェッショナルを認定する資格制度の国際的な相互認証を行うためのISO標準が発効し、そうした環境の中で、日本の情報処理技術者試験などの制度見直しなども含め、グローバル環境の中で日本ではどうしていくべきかについても言及したい。



宮沢修二（(株)ラーニング・アーキテクチャ研究所 代表取締役社長）

【略歴】 IT技術者育成事業に約30年従事。情報処理技術者試験対策や人材育成制度構築、e-ラーニング標準化の推進、コンテンツ開発プロデュース、ラーニングアーキテクチャデザイン、情報システム構築や工程管理支援等のコンサルティングを実施。また、10数年にわたり政府のIT担当者育成を実施し、2008年情報処理月間総務大臣個人表彰を受ける。ITガバナンス、情報システム監査の普及やIPAの教育エンジニアプロコミ委員、日本テスト学会理事、金融庁CIO補佐官として活動。

パネル討論：[14:30～15:30]

司 会：掛下哲郎（佐賀大学 理工学部知能情報システム学科 准教授／高度IT人材育成フォーラム代表）

写真、略歴は、司会を参照。

パネリスト：旭 寛治（一般社団法人 情報処理学会 ITプロフェッショナル委員会 委員長／元（株）日立テクニカルコミュニケーションズ 代表取締役）

写真、略歴は、講演（1）を参照。

パネリスト：宮沢修二（(株)ラーニング・アーキテクチャ研究所 代表取締役社長） 写真、略歴は、講演（2）を参照。



パネリスト：田中久也（(独)情報処理推進機構 IT人材育成本部 本部長）

【略歴】 1977年4月富士通（株）入社。1996年12月同社ソフト・サービス事業推進本部、統合サポートセンター企画部長。2000年12月同社システムサポート本部業務合理化統括部長。2005年6月同社システムサポート事業本部長代理。2006年8月同社マーケティング本部長代理。2007年4月同社FUJITSU ユニバーシティ本部長代理。2007年4月（株）FUJITSU ユニバーシティ取締役。2009年1月（独）情報処理推進機構 IT人材育成本部長（現在に至る）。



パネリスト：高橋邦明（一般社団法人 ガバナンスアーキテクト機構 専務理事）

【略歴】 陸上自衛隊において、部隊や各種教官を経験した後、情報システムを用いた後方支援業務改革を担当。自衛隊退職後は、商社等の民間企業の業務改革、情報システム導入などの支援を行う。その後、業務・システム最適化指針策定に携わるとともに、総務省の任期付職員（行政管理局課長補佐等）として府省共通システムの開発にも携わる。現在、コンサルタントとして、官公庁における業務・システムの最適化やシステム調達などにかかわる支援業務や講演活動を行う。

先端IT活用推進コンソーシアム

「コンテキストがオープン・ガバメントを具現化する ―防災情報の個人化に関する研究事例―」

[会場 2F 蓬莱]

【セッション概要】 先端IT活用推進コンソーシアム（AITC）は、2010年9月にXMLコンソーシアムの後継団体として設立されました。AITCでは、活動対象の1つとしてコンテキスト・コンピューティング（CC）を取り上げ、公共機関が提供するデータを個人のコンテキストとリンクさせることで、「個々へのサービス」にならないかという観点から「オープン・ガバメント」のあり方を研究しています。今回は、実証過程の1事例として、XMLコンソーシアム時代に技術協力し策定した「気象庁防災情報XML」を取り上げ、気象庁にもご協力いただき進めている研究の一端を紹介いたします。気象庁が発表する防災情報は、公共に配布される情報でありながら、住民一人一人の命を守るための個別行動を計画できるものであるべきです。コンテキストとリンクさせることで、防災情報が我が事と思える情報になるか、また、コンテキスト・コンピューティング（CC）は未来の知識社会にどうかかわるのか、最新の考察もご紹介いたします。



司会：田原春美（先端IT活用推進コンソーシアム 副会長／ドリームIT21）

【略歴】 日本アイ・ビー・エムにてVMのシステム・エンジニアやOS/2推進に従事。その後、IBMが全世界で展開するEmerging Technology推進プログラムJStart（Jump Start）に日本代表として参加。Java、XML、Webサービス等の先進的利活用を牽引した。OS/2、Java、EJBコンポーネント、XMLの4コンソーシアムに続き、2010年9月、「先端IT活用推進コンソーシアム」を立ち上げた。特に、Java以降はオープンな先進技術を業界横断で普及推進することに注力し、現在はドリームIT21代表として、ライフワークである企業の枠を超えた活動の場作りに取り組んでいる。

講師 5 名による講演：コンテキストがオープン・ガバメントを具現化する ～防災情報の個人化に関する研究事例～ [13:30～15:30]



和泉憲明（先端IT活用推進コンソーシアム CC 研究部会サブリーダー／産業技術総合研究所）

【略歴】1994年大阪府立大学大学院工学研究科博士前期課程修了。知識基盤の研究に従事。特に、大規模情報システムの開発プロジェクトにおける知識の獲得や運用をフィールドワークとして、知識経営やサービスサイエンスなどの観点から、コンテンツや知識の社会的循環モデルの研究に取り組んでいる。静岡大学情報学部、(独)産業技術総合研究所・サイバーアシスト研究センター、情報技術研究部門、サービス工学研究センターを経て、2009年より(独)産業技術総合研究所 社会知能技術研究ラボ・主任研究員、大阪府立大学文書解析・知識科学研究所研究員(2008～)、博士(工学)(慶應義塾大学)。



小林 茂（先端IT活用推進コンソーシアム CC 研究部会メンバ／日本ユニシス）

【略歴】日本ユニシス(株)総合技術研究所 先端技術部、メインフレーム系の日本語処理、文書関連の業務を通じ、XMLなどの技術に触れ、XMLやWebサービス、SOAに関するITコンサルなどを経験。現在は、次世代の利用者環境に必要な基盤技術の研究開発に従事。Web技術、セマンティックWeb技術などの応用に関心をもつ。技術士(情報工学部門)、情報処理学会会員。

田原春美（先端IT活用推進コンソーシアム 副会長／ドリームIT21） 写真、略歴は、司会を参照。



牧野友紀（先端IT活用推進コンソーシアム CC 研究部会リーダー／日本ユニシス）

【略歴】日本ユニシス(株)総合技術研究所 先端技術部、アプリケーションのメッセージ通信基盤の製品開発、XML、Webサービスの実用化を推進。現在、使う人や扱うデータに応じて自律的に適応する次世代情報システムの研究に従事する。先端IT活用推進コンソーシアム理事、情報処理学会会員。



湯本正典（先端IT活用推進コンソーシアム CC 研究部会サブリーダー／日立ソリューションズ）

【略歴】(株)日立ソリューションズ 事業開発部所属。2000年、(株)日立システムアンドサービス入社。金融系SIにてオブジェクト指向設計を担当。その後、ファンクションポイント法を中心とした見積技法、ソフトウェアのロバスト設計、データ分析手法の実装の研究に従事。現在は、セマンティック技術を応用した“気が利く”システムの実現を目指している。博士(理学)、情報処理学会会員、セマンティックWeb委員会委員、先端IT活用推進コンソーシアム・コンテキストコンピューティング研究部会サブリーダー。

IT ダイバーシティフォーラム 「女性たちが知恵と力を育むコミュニティ活動」 [会場 2F 平安]

【セッション概要】活躍する女性が増加する一方、身近に同じような悩みを乗り越えた経験をもつ女性が少ないのも現実である。企業の管理職に占める女性の割合は5～8%、情報処理学会の女性会員も6%程度となっており、企業戦略として女性コミュニティを作る動きも進んでいる。本フォーラムでは、企業の枠を超えて女性たちの手で運営されているコミュニティ活動を取り上げる。実際に活動されている講演者に、活動内容、やりがい、得たこと等を紹介していただき、コミュニティへ参加したい人や活性化したい人へのヒントを探る。コミュニティに関心のある方にとって、本フォーラムそしてシンポジウム後の懇親会が、情報交換と新たなネットワーキングの場になることを期待しています。



司会：山本里枝子（(株)富士通研究所 ソフトウェア&ソリューション研究所 部長）

【略歴】1983年早稲田大学理工学部電子通信学科卒業。同年富士通研究所入社。現在富士通研究所ソフトウェアイノベーション研究部部長。ソフトウェア工学の研究開発に従事し、ソフトウェアパターン、モデルベース開発、テストング、ビジネスプロセスモデリング、要求工学などの技術開発を担当。情報処理学会山下記念研究賞受賞、情報処理学会理事他、情報関連の委員等を歴任。早稲田大学非常勤講師など。情報処理学会、IEEE各会員。

講演(1)：日本で開催された最近の国際的女性ネットワーク会合 —APEC 女性リーダーズネットワーク会合と APEC 女性起業家サミット [15:45～16:15]

【講演概要】2010年9月APEC議長国を務める日本は、APEC女性リーダーズネットワーク(WLN)会合を初めて東京で開催した。また10月にはAPEC女性起業家サミットも岐阜で開催された。これらの会議には、経済界を中心に活躍する海外の女性リーダーたちが集い、熱い議論がなされた。日本にとっては海外のベスト・プラクティスを学び、ロール・モデルに接するまたとない良い機会であった。WLN会合では、APEC中小企業担当大臣などへの提言がまとめられ、APEC21エコノミーで共通の数値指標を持つことなども提言された。今後、国内および国際的なネットワークの形成・強化、経済活動への女性の参画意識の高揚、日本の女性のエンパワーメントの推進などを期待する。



國井秀子 (リコー ITソリューションズ(株) 取締役会長執行役員／2010 APEC WLN 会合実行委員会副委員長)

【略歴】1973年お茶の水女子大学大学院理学研究科修士号取得。テキサス大学コンピュータサイエンス学科Ph. D. 取得。1982年(株)リコー入社以来ソフトウェア分野の研究開発責任者。常務執行役員を経て2008年から現職。情報サービス産業協会(JISA)理事、総務省情報通信行政・郵政行政審議会委員、文部科学省科学技術・学術審議会委員、(株)産業革新機構産業革新委員、内閣府男女共同参画推進連携会議議員、日本データベース学会副会長、2008～09年IEEE JC Women in Engineering (WIE) Chairなど。情報処理学会フェロー、アドバイザリーボードメンバー。

講演 (2)：企業・職種の枠を超えたネットワーキングー日本女性技術者フォーラム (JWEF)

[16:15～16:45]

【講演概要】日本女性技術者フォーラム (JWEF) は女性技術者相互の交流と情報交換により、能力を発揮することのできる場を創出し社会貢献を高める目的で1992年に創設された任意団体である。特徴は技術者であれば誰でも参加でき、自由に交流できる点にある。会員数は現在約150名。キャリアやワークライフバランスのセッション、理系企業見学会、理系女子学生との交流会等を開催し、会員間のネットワーク構築に取り組んでいる。昨年度から若手女性エンジニアへの表彰を行い、ロールモデル発掘と若手モチベーションアップにも取り組んでいる。JWEFの運営は会員の中から選出された運営委員が中核となって進めており、講演者は2010年度から運営委員を務めている。本講演ではJWEFの活動内容と、運営についてご紹介する。



森 茂子 (日本アイ・ビー・エム (株) ソフトウェア開発研究所 課長 ソフトウェア・アーキテクト／日本女性技術者フォーラム (JWEF) 運営委員)

【略歴】1985年電気通信大学・電気通信学部・計算機科学科卒業後日本IBM入社。ネットワークシステム、金融系システム開発を経て2000年よりデータベース管理ソフトウェア開発に従事。2007～08年に日本IBMの女性技術者コミュニティCOSMOSメンバとして社内女性技術者ネットワーキング活動に参加。女性技術者のワークライフバランス、キャリアアップに関する社内外講演を行う。2010年よりJWEF運営委員、情報処理推進機構 (IPA) 女性キャリア改革検討委員会委員。

講演 (3)：J-Win (ジャパン・ウィメンズ・イノベティブ・ネットワーク) の活動紹介

[16:45～17:15]

【講演概要】特定非営利活動法人ジャパン・ウィメンズ・イノベティブ・ネットワーク (NPO法人J-Win) は、企業におけるダイバーシティ・マネジメントの促進と定着を支援することを目的に、2007年4月に設立された企業メンバ制の団体である。2010年8月現在、83社、257名の会員がいる。J-Winは、女性メンバのネットワーキング活動、会員企業のダイバーシティ・マネジメント推進の支援、セミナー等を通じた行政機関、公的機関への協力等を行っている。講演者は2007年4月から2年間メンバを務め、主に高校生・大学生へのキャリア教育支援を行った。講演では、活動内容や活動を通して得たこと、特に女性幹部 (候補生を含む) の相互交流・自己研鑽を目的としたJ-Winならではの体験できたこと、今後のJ-Winへの期待をお話させていただきたい。



松山科子 (ソニー(株) システム技術研究所 統括課長, シニアリサーチャー)

【略歴】東京都立大学 (現：首都大学東京) 理学部数学科卒業後、(株) NEC情報システムズを経て、ソニー (株) に勤務。生体情報の解析、医療・健康情報システムの研究開発に従事。筑波大学大学院ビジネス科学研究科経営システム科学専攻修了後、東京工業大学総合理工学研究科知能システム科学専攻を2008年3月修了。博士 (工学)。情報処理推進機構 (IPA) 女性キャリア改革検討委員会委員。

講演 (4)：育児休業後のキャリアを支えるネットワーク [17:15～17:45]

【講演概要】IT企業では、女性を営業やシステムエンジニアとして積極的に採用しながら、育児休業を取得して復職すると元の職場に戻さないで管理部門などに異動させるケースが見られる。今後ますます増える育児後社員のキャリアを無駄にしないような組織作りが急務である。一方育児後社員は、子育てとの両立で日々の忙しさに流され、5年先10年先の働き方の目標設定をあいまいにしがちである。これには社内、社外で同じ立場や少し上の世代との交流が有効で、情報共有し自分を見つめ直すことが、将来の目標を再設定することにつながる。講演ではこのような現状を説明するとともに、父親の育児休業取得が奨励されていることを利用して夫婦が協力しあって、子育てもキャリアも犠牲にしない若い世代の選択について紹介する。



山口理栄 (育児後コンサルタント)

【略歴】1984年筑波大学情報学類卒業後、(株) 日立製作所入社。情報通信グループソフトウェア事業部にてオペレーティングシステム、運用管理ソフトの開発に従事。2006年4月に同グループ女性カウンスルの初代リーダーに就任。社内ロールモデルによるパネルディスカッション、メールマガジン発行、SNSの活用などによりダイバーシティマネジメントを推進。2008年1月に同社を退職、コンサルティングファーム勤務を経て2010年6月に独立。

電子情報技術産業協会 「クラウドの需要動向と 2030 年理想の未来像」 [会場 2F 瑞雲]

【セッション概要】今、お客様の期待するクラウドとは何か、人々が理想とする未来像はどういったものか、これから我々は何に注目していけばよいのか、そこにITはどう絡み、どう融合していくのか、JEITAで行ったクラウドに関するユーザ調査とユーザ視点での未来予想ヒアリング調査結果等を踏まえながら、これからの時代のありようを語る。



司会：小林千早都（日本ユニシス（株）政策推進センター センター長補佐）

【略歴】1965年京都市生まれ。1988年京都産業大学理学部数学科卒業。同年SEとして日本ユニシス（株）入社。以降、お客様のシステム開発や保守作業、システム提案、PCのマーケティング、企業プロモーション、eビジネス全般の企画・推進、ビジネスアライアンス推進業務を経て、現在は、省庁や各種団体における渉外活動に従事。経済産業省・産学連携IT人材育成実行WG委員、JEITAソリューションサービス事業委員会副委員長などを務める。一方で、作詞家、歌人、俳人、ライター顔も持つ。

講演(1)：ユーザ調査から見たクラウドの需要動向 [15:45～16:15]

【講演概要】ビジネスの俊敏性の向上、コスト削減などの観点からクラウドコンピューティングが注目されています。本講演では、クラウドに関するユーザアンケートおよびユーザ、ベンダに対するヒアリング調査結果について報告します。



石橋賢一（（株）日立製作所 経営戦略室 担当部長）

【略歴】1982年東京工業大学工学部卒、1984年同大学院生産機械工学修士課程修了。同年、（株）日立製作所入社、中央研究所、エンタープライズサーバ事業部などを経て、現在は経営戦略室に勤務、ITプラットフォームの事業戦略を担当。JEITAサーバシステムプラットフォーム専門委員会委員長。

講演(2)：クラウドによる未来予想 —2030 年どんな未来になっいてほしい?— [16:15～16:45]

【講演概要】クラウドをキーワードにITが所有から利用に大きくシフトする中で、今年度JEITAでは、ビジョナリスト10名からいただいたキーワード、市民参加のワークショップを経て、利用者視点に立った2030年未来の理想像を描いてみました。本セッションではこれをご紹介しますとともに、未来図にたどり着くための課題を抽出・整理していきます。

小林千早都（日本ユニシス（株）政策推進センター センター長補佐） 写真、略歴は、司会を参照。

対談：ルールはクラウドが決める?! [16:45～17:45]

【対談概要】音楽の世界、鉄道の世界、書籍の世界……コンテンツの世界のみならず、あらゆるものの作り手と受け手のあり方が今変わろうとしています。未来に向けて、物事のルールはだれがどこでどんな風に決めていくのでしょうか。この対談では、さまざまな分野で活躍されている向谷実氏の活動をひも解きながら、これからのものづくり、ものの流れ、それを支える人々の心のありようを探っていきます。



向谷 実（（株）音楽館 代表取締役）

【略歴】1956年東京生まれ。日本を代表するフュージョンバンド「カシオペア」に20歳よりキーボーディストとして加入。40枚以上のCDアルバムを発表。2001～2010年まで名古屋芸術大学音楽文化応用学科の専任教授を務めた。最近では、UstreamとTwitterを積極的に活用した向谷倶楽部での音楽制作・発信が注目を集めている。また、熱狂的な鉄道ファンでもあり、世界初の実写版・鉄道シミュレーション・ゲーム「Train Simulator」を（株）音楽館の代表取締役として開発。博物館や鉄道会社に技術が買われ、業務用ソフトの開発も手がけている。最近では発車メロディや車内BGMの制作、書籍アプリも手がけており、各種メディアにも広く出演中。

小林千早都（日本ユニシス（株）政策推進センター センター長補佐） 写真、略歴は、司会を参照。

情報サービス産業協会 「要求工学への実践的な取り組み」 [会場 2F 蓬莱]

【セッション概要】当セッションでは昨年度に引き続き、要求工学への実践的な取り組みを紹介する。（社）情報サービス産業協会では、平成18年度より要求工学WGを設置し、特に平成20年度より要求工学知識体系（REBOK：Requirements Engineering Body Of Knowledge）の開発に力を入れている。すでに昨年度REBOKの概要について説明したが、本年度いよいよ第1版公表に向け、各知識領域の内容について簡単に触れるとともに、知識体系の活用方法を説明する。また情報サービス事業者のシステム開発に資する取り組みとして、（株）NTTデータの上流プロセスへの取り組みを紹介する。同社ではお客様の変革パートナーとして、「上流」「つくり」「活用」の3つのサイクルをまわしていくことで、新たな価値提供の実現を目指している。



司会：鈴木律郎（(社)情報サービス産業協会 企画調査部 技術課長）

【略歴】1986年東洋大学文学部卒業。情報サービス会社を経て1993年4月より現職。情報サービス産業の業界発展と社会の情報化促進に資する活動に従事。「オープンソース」「SOA（サービス指向）」「要求工学」などのテーマに取り組み、当産業への普及定着のための活動を推進。社内の情報システム管理者でもあり、利用者の立場からソフトウェアエンジニアリングの成果活用に関心がある。

講演(1)：要求工学知識体系(REBOK)とその現場への応用 [15：45～16：45]

【講演概要】情報システム開発における最大の課題が要求定義にあることから、要求定義の技術体系である要求工学の活用が情報システム開発の成否を握る。しかし、要求工学は多様な技術とスキルを包括することから、その習得が課題となっている。要求工学を理解し、実践するために、開発現場の実務家と要求工学専門家が実務の視点から要求工学の知識を整理した、要求工学知識体系（REBOK：Requirements Engineering Body Of Knowledge）が策定され、現場への普及、人材育成への応用が始まっている。本講演では、要求工学の現状とREBOKの紹介を行い、BABOKなどの関連知識体系との位置づけ、現場における要求工学の実践と人材育成のあり方を紹介する。



青山幹雄（南山大学 情報理工学部 ソフトウェア工学科 教授）

【略歴】1980年岡山大学大学院工学研究科修士課程修了。同年富士通（株）入社。大規模分散処理通信ソフトウェアシステムの開発と開発技術の開発と適用に従事。この間、1986～88年米国イリノイ大学客員研究員。1995年4月～2001年3月新潟工科大学情報電子工学科教授。2001年4月～2009年3月南山大学数理情報学部情報通信学科教授。2009年4月同大学情報理工学部ソフトウェア工学科教授。

講演(2)：NTT データの上流プロセスの取り組み [16：45～17：45]

【講演概要】近年のシステム開発では開発プロセスの初期段階における要求分析の重要性が指摘されています。特に要件定義に入る段階で開発するシステムの目的や要件の内容が不明確であると、ステークホルダの議論の混乱や手戻り発生リスクが高まります。NTTデータでは、要求の定義や管理を体系的に取り扱う要求工学の研究開発に取り組んでいます。本講演では、上流プロセスの品質向上・高度化を実現するための方法論・技法・ツールの研究開発・普及展開の内容をご説明します。



斎藤 忍（(株)NTTデータ 技術開発本部 ソフトウェア工学推進センタ シニアエキスパート）

【略歴】2001年慶應義塾大学大学院理工学研究科修士課程修了。同年、(株)NTTデータ入社。ユビキタスコンピューティング、エンタープライズアーキテクチャ、要求工学の研究開発に従事。現在、技術開発本部ソフトウェア工学推進センタに所属。2007年慶應義塾大学理工学研究科博士課程修了。博士（工学）。

IT フォーラム展示 [会場：5F 大ホール前]

ユニバーサルデザイン協創フォーラム

「見えなくても中身がわかる!! バーコードを用いた視覚障害者向け商品案内」 [9：30～17：30]

【展示概要】相方が仕事のあいだ留守番しているとき、あるいはひとり暮らしの方、下宿している学生さん！ まとめ買いしてきた商品や、棚の奥にしまってあった缶詰め、いままさに空けようとしているペットボトルの中身、インスタントラーメンの味が、空ける前になんだか分かったら、生活が楽しくなるといいませんか。バーコードを読み取って、視覚に障害のある人に音声で知らせるプロジェクトをはじめています。と聞いたら、「どこにバーコードが印刷されているか分からないだろうから、ひとりで読むのは無理じゃないの?」と思いますよね。会場にデモソフトを用意していますので、視覚に障害のある方もない方もぜひいらして体験してみてください。また、腕に自信のある方、ぜひフォーラムに参加して、ソフト開発にご協力ください。



栁川友宏（静岡大学 情報学部 教員）

【略歴】筑波大学自然学類卒業。学部在学中に福祉機器に関心をもち、情報学部生に紛れてハードウェアやアルゴリズムを学ぶ。大学院より情報分野に転身。2000年同大学院工学研究科修了。同年静岡大学情報学部助手として着任し、情報家電の研究に着手。現在の興味は、手頃な情報保障のためのモデル作りとアクセシビリティ向上のための機器連携フレームワーク。情報処理学会福祉情報システムフォーラム世話人、映像情報メディア学会コンシューマエレクトロニクス研究会幹事。IEEE CE Japan Chapter 若手論文賞（'00, '00, '01, '01, '03）、IEEE Intl. Conf. on Consumer Elec. Outstanding Paper Award（'05 Poster）。

お食事処案内／ Restaurant Guide



1 キャラバンコーヒー



2 上野精養軒



3 つきじ植むら



4 サロン・ド・サロン
(7F)



13 デニーズ



14 マクドナルド
15 ラーメン花菱



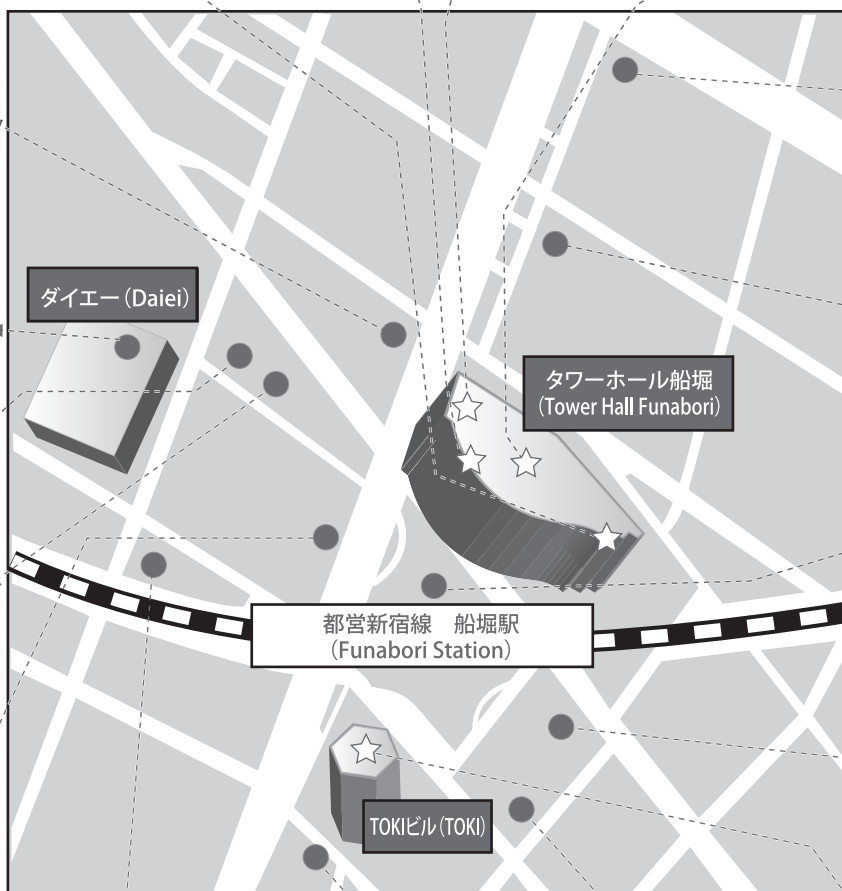
16 のほほん



17 平塚寿司



18 かまどや



25 ジョナサン



24 949



23 アザレー



22 バーミヤン



19 萃寿



20 とんかつ田



21 魚民



5 モスバーガー



6 ミスタードーナツ



7 すし 三崎丸



8 かるび家



9 ビックフット



10 とり樹亭



12 コンパスポイント



11 ポポラマーマ

※このご案内はあくまで情報のご提供を目的に作成しております。状況により実在と異なる場合もございますので、詳細は各施設へお問い合わせください。

	店名／Name	営業時間／Business Hours	定休日／Regular Holiday	種別／type	電話番号／Phone	備考／Remarks
1	キャラバンコーヒー Caravan Coffee	9:00~20:30	年中無休 No Holidays	喫茶・軽食 Coffee / Light Meal	03-5605-8559	タワーホール船堀 1階 Tower Hall Funabori 1F
2	上野精養軒 Ueno Seiyoken	11:00~21:00	年中無休 No Holidays	洋食 / Western	03-5676-2701	タワーホール船堀 1階 Tower Hall Funabori 1F
3	つきじ植むら旬泉坊 船堀店 Tsukiji Uemura	平日/Weekday 11:00~15:00 17:00~22:00 日祝祭/Holidays 11:00~22:00	年中無休 No Holidays	和食／Japanese	03-5667-2633	タワーホール船堀 1階 Tower Hall Funabori 1F
4	サロン・ド・サロン(展望レストラン) Salon de Salon	11:00~21:00	年中無休 No Holidays	洋食 / Western	03-5676-3307	タワーホール船堀 7階 Tower Hall Funabori 7F
5	モスバーガー 船堀駅前店 Mos Burger	8:00~24:00	年中無休 No Holidays	ハンバーガー Hamburger	03-3688-9808	トキビル 1階 TOKI building, 1F
6	ミスタードーナツ 船堀駅前店 Mister Donut	7:00~24:00	年中無休 No Holidays	喫茶・ドーナツ Coffee / Donut	03-3688-3715	トキビル 1階 TOKI building, 1F
7	すし 三崎丸 Sushi Misakimaru	11:00~23:00	年中無休 No Holidays	回転寿司 Revolving Sushi bar	03-5605-6831	トキビル 1階 TOKI building, 1F
8	かるび家 Karubiya	11:00~23:00	年中無休 No Holidays	焼肉 Korean Barbecue	03-5605-9021	トキビル 2階 TOKI building, 2F
9	オリエンタルビッグフット Oriental Big Foot	11:00~16:00 17:00~24:00	年中無休 No Holidays	無国籍料理 Multinational	03-5679-5788	トキビル 2階 TOKI building, 2F
10	とり樹亭 Torijutei	17:00~23:30	水曜日／Wednesday	和食／Japanese	03-3686-2273	トキビル 2階 TOKI building, 2F
11	ポポラマーマ Popolamama	11:00~23:00	年中無休 No Holidays	スバゲティ Italian	03-3869-0780	トキビル 2階 TOKI building, 2F
12	コンパスポイント Compass Point	11:30~14:30 18:00~23:30	月曜日／Monday	和洋食 Japanese & Western Restaurant	03-3877-2129	トキビル 2階 TOKI building, 2F
13	デニーズ Denny's	0:00~24:00	年中無休 No Holidays	ファミリーレストラン Coffee & Restaurant	03-5675-1138	
14	マクドナルド McDonald's	10:00~21:00	年中無休 No Holidays	ハンバーガー Hamburger	03-6663-7317	ダイエー内 1階 DAIEI, 1F
15	ラーメン花菱 Ramen hanabishi	10:00~21:00	年中無休 No Holidays	ラーメン Ramen noodles	03-3675-8166	ダイエー内 1階 DAIEI, 1F
16	のほほん Nohohon	7:00~21:00	年中無休 No Holidays	韓国料理 Korean Restaurant	03-3869-5334	
17	平録寿司 船堀駅前店 Heiroku-Sushi	11:00~22:00	年中無休 No Holidays	回転寿司 Revolving Sushi bar	03-3877-9197	
18	かまどや 船堀店 Kamadoya	11:00~4:30 土日祝前日2:30まで	年中無休 No Holidays	和食／Japanese	03-5696-0951	
19	萃寿 Suiyosi	11:00~22:00	年中無休 No Holidays	中華 Chinese Restaurant	03-3877-3715	
20	とんかつ 田 Tonkatsu Den	11:30~14:30 17:00~21:30	年中無休 No Holidays	とんかつ (Breaded) Pork Cutlet	03-5676-7555	
21	魚民 Uotami	17:00~5:00	年中無休 No Holidays	和食／Japanese	03-3877-3788	
22	バーミヤン Bamiyan	10:00~5:00	年中無休 No Holidays	中華 Chinese Restaurant	03-5667-3248	
23	アザレー AZALEE	8:00~20:00	年中無休 No Holidays	喫茶 Café & Bakery		船堀駅 Funabori station
24	949(クシキュー) Kushikyu	17:00~4:00	年中無休 No Holidays	串焼き Skewered food	03-3869-0289	
25	ジョナサン Jonathan's	0:00~24:00	年中無休 No Holidays	ファミリーレストラン Coffee & Restaurant	03-5696-7384	

この案内と実態は一致しない場合があります。／ This guide and actual condition may not be in agreement.

大会参加申込・詳細はこちら 事前予約 申込締切 2011年2/10

http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/taikai/73kai/ 情報処理学会 第73回全国大会

グリーンIT

人類の未来のための
情報処理技術

大会スポンサー(ゴールド)



株式会社トヨタ

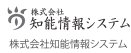


NTT
日本電信電話株式会社



ネットワンシステムズ株式会社

大会スポンサー(スタンダード)



株式会社知能情報システム



GREE
グリー株式会社



MITSUBISHI
三菱電機
三菱電機株式会社

2011年3/2水 → 3/4金

東京工業大学 大岡山キャンパス
(東京都目黒区大岡山2-12-1)



招待講演企画(聴講参加無料)

※聴講参加申込が必要です 第1イベント会場[70周年記念講堂]

2日(水) 13:00-13:50

① 気象・気候の予測とコンピュータモデル

木本 昌秀(東京大学 大気海洋研究所 教授・副所長)

3日(木) 13:50-14:30

② MERLOT - the Multimedia Educational Resource for Learning and Online Teaching

Sorel Reisman(IEEE-CS 会長)

3日(木) 14:35-15:15

③ Building Science Platform for Extremely Large Data Analysis

Yoon Joon Lee(KIISE 会長)

4日(金) 13:00-14:15

④ 生命現象と動的平衡

福岡 伸一(青山学院大学 理工学部 教授)

イベント企画(聴講参加無料)

※聴講参加申込が必要です 第1~6イベント会場

[2日(水)]

- ・スマートグリッドの技術優位性を事業優位性に活かす戦略
- ・グリーンなパソコンでグリーンな未来を創る
- ・私の詩と真実
- ・ERATO 炭素分散処理系プロジェクトシンポジウム(第2回)
- ・情報教育関連合同シンポジウム-PCスキル教育からの脱却
- ・情報教育関連合同シンポジウム-情報処理学会員の皆様、間違っていないですか?
- ・会員の研究活動活性化に向けた論文の書き方・査読の仕方
- ・JGN2plus の成果とその後継プロジェクト
- ・TSUBAME 大公開(見学・紹介ツアー)

[3日(木)]

- ・グリーン・ライフイノベーションと国際標準
- ・大会挨拶・各種表彰式・認証式
- ・プライバシー保護データマイニング
- ・RSA-1024はもう危険なのか?暗号2010年問題を正しく理解する
- ・情報教育関連合同シンポジウム-情報科学技術における高度人材育成の取り組み
- ・情報教育関連合同シンポジウム-情報分野の高度連携
- ・情報教育関連合同シンポジウム-発注者教育はどうあるべきか
- ・ロボカップ春季競技会(1次リーグ)
- ・TSUBAME 大公開(見学・紹介ツアー)

[4日(金)]

- ・グリーンITの先進的な取り組み-データセンタのエネルギー効率向上について-
- ・医療クラウドは患者生存に貢献できるか
- ・スマートシティ実現のためのIT技術開発と省エネの現状
- ・情報教育関連合同シンポジウム-大学学部専門教育での情報教育
- ・ロボカップ春季競技会(決勝リーグ)

一般セッション・学生セッション(聴講参加有料)(デモセッションは聴講参加無料)

※聴講参加申込が必要です

[2日(水)~4日(金)]

約1,300件の研究成果発表があります。大会3日間でおよそ30会場を使用して、180あまりのセッションが組まれ、活発な発表、議論・討論が行われます。

懇親会[有料]

※参加申込が必要です 懇親会場[百年記念館 3F フェアイト会議室]

[3日(木) 18:00~20:00]

大会聴講参加費・講演論文集代・懇親会参加費(税込)

※詳細はWebページ参照

聴講参加費	費用	講演論文集代	予約価格(1100円)	定価	懇親会参加費	予約価格	当日
大会イベント企画のみ聴講参加	無料	セット(DVD付)	57,000円	61,000円	一般(正会員・非会員)	4,000円	5,000円
大会共通聴講参加(正会員)DVD付	3,000円	分冊	12,000円	13,000円	学生	2,000円	3,000円
大会共通聴講参加(正会員)DVD付	8,000円	DVDのみ(個人)	8,000円	8,000円			
大会共通聴講参加(一般非会員)	6,000円	DVDのみ(法人)	55,000円	55,000円			
大会共通聴講参加(学生)	無料						

*セット(DVD付)と分冊は個人・法人ともに同額です。

*DVDは学生限定・大会会場限定で印刷会場のみの閲覧が可能です。

*大会イベント企画のみ聴講参加は、招待講演企画・イベント企画・デモセッション・各種展示のみ聴講参加が可能です(一般セッション・学生セッションの聴講参加はできません)。

*大会共通聴講参加は、一般セッション・学生セッションを含む大会全てのセッションの聴講参加が可能です。



問合せ先: 一般社団法人情報処理学会 事業部門
E-mail: jigyo@ipsj.or.jp
Tel(03)3518-8373 Fax(03)3518-8375

日本のコンピュータ・情報処理の発展を伝える正史 遂に刊行!!

日本のコンピュータ史

The History of Japanese Computers

情報処理学会歴史特別委員会 編
A5判・388頁 定価7980円(本体7600円+税)

1980年から2000年の20年間の日本のコンピュータの歴史を情報処理学会歴史特別委員会で検証してまとめたものです。この時代は、パソコンとインターネットの時代へとITが大きく変貌と遂げた激変の時代であり、その最前線で関わった人たちによって執筆されています。

1960年以前の歴史をまとめた「日本のコンピュータの歴史」と1960年から1980年をまとめた「日本のコンピュータ発達史」をCD-ROMに収録して添付しています。



【編集委員会】

委員長：発田 弘(前沖電気工業株式会社)

幹事：松永俊雄(東京工科大学名誉教授)

委員：旭 寛治(前株式会社日立製作所)／鶴飼直哉(前富士通株式会社)／浦城恒雄(東京工科大学名誉教授)／坂井修一(東京大学)／前島正裕(国立科学博物館)／山田昭彦(コンピュータシステム&メディア研究所)／和田英一(東京大学名誉教授)

【目次】

第1章 日本のコンピュータ史概論(1980年まで)

第2章 日本のコンピュータ史概論(1980年から2000年まで)

第3章 日本のコンピュータの発展 汎用大型コンピュータ(メインフレーム)／オフィスコンピュータ／パーソナルコンピュータ／スーパーコンピュータ／ワークステーション・サーバ／日本語ワードプロセッサ(ワードプロセッサ)／周辺機器／専用端末装置システム／ソフトウェア／文字コード／大学など研究機関での活動

第4章 ネットワーク社会への展開 ネットワーク環境の変遷／OSIの始まりと終焉／インターネット／モバイルコミュニケーション／電子商取引

第5章 情報技術分野の主要な研究開発プロジェクト 概要／第五世代コンピュータ／科学技術用高速計算システム／リアルワールド・コンピューティング／TRONプロジェクト／DIPS

第6章 その後の進展と今後の展望
年表・年譜

「日本のコンピュータ史」購入申込書

送付先 ■ 〒101-0062 千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 4F 一般社団法人 情報処理学会出版担当
Tel: (03)3518-8371 (部門直通) Fax: (03)3518-8375 E-mail: editj@ipsj.or.jp

会員価格 ■ (送料・税込み) **7,182円**

*学会間の相互協力により、情報処理学会、電気学会、照明学会、電子情報通信学会、映像情報メディア学会の5学会の個人・法人会員の方は、会員価格で購入できます。

記入欄

◎所属学会

学会名: _____ 会員 No.: _____

◎購入申込冊数

購入申込冊数 _____ 冊 合計金額 _____ 円

◎お支払い方法 下記の該当お支払い方法にチェック☑し、見積・納品・請求書の希望枚数をご記入ください。

●お支払い方法: ☐銀行 ☐郵便振替 ☐現金持参

●見積・納品・請求書(3枚綴り): _____ 通 希望 請求書宛先: _____

◎送付先(※は必須事項)

ご氏名*: (漢字) _____ (カナ) _____

送付区分*: ☐自宅 ☐勤務先

ご住所*: 〒 _____

会社/学校名: _____ 所属: _____

Tel*: _____ Fax: _____

E-mail*: _____

◎通信欄 (要望事項等あればご記入ください)



新刊!!

ITText 確率統計学

須子統太・鈴木 誠・浮田善文・小林 学・
後藤正幸 共著
A5判/264頁/本体2,800円(税別)

ITText 離散数学

松原良太・大島彰昇・藤田慎也・小関健太・
中上川友樹・佐久間雅・津垣正男 共著
A5判/256頁/本体2,800円(税別)

ITText 一般教育シリーズ 情報ネットワーク

岡田 正・駒谷昇一・西原清一・水野一徳 共著
A5判/160頁/本体2,300円(税別)

ITText 一般教育シリーズ 情報と社会

駒谷昇一 編著
A5判/220頁/本体2,500円(税別)

ITText 一般教育シリーズ 情報システム基礎

神沼靖子 編著
A5判/228頁/本体2,500円(税別)

ITText 一般教育シリーズ 情報とコンピューティング

河村一樹 編著
A5判/218頁/本体2,500円(税別)

ITText コンパイラとバーチャルマシン

今城哲二・布広永示・岩澤京子・千葉雄司 共著
A5判/212頁/本体2,800円(税別)

ITText コンピュータグラフィックス

魏 大名・Carl Vilbrandt・Roman Durkovic・先田和弘・
向井信彦 共著
A5判/280頁/本体3,000円(税別)

ITText コンピュータネットワーク

松下 温・重野 寛・屋代智之 共著
A5判/216頁/本体2,500円(税別)

ITText 音声認識システム

鹿野清宏・伊藤克亘・河原達也・武田一哉・山本幹雄 編著
A5判/216頁/CD-ROM付/本体3,500円(税別)

ITText エージェント工学

西田豊明・木下哲男・北村泰彦・間瀬健二 共著
A5判/226頁/本体2,800円(税別)

ITText ヒューマンコンピュータ インタラクション

岡田謙一・西田正吾・葛岡英明・塩澤秀和・仲谷美江 共著
A5判/240頁/本体2,800円(税別)

ITText オペレーティングシステム

野口健一郎 著
A5判/240頁/本体2,800円(税別)

ITText データベース

速水治夫・宮崎収兄・山崎晴明 共著
A5判/196頁/本体2,500円(税別)

ITText ソフトウェア工学演習

伊藤 潔・廣田豊彦・富士 隆・熊谷 敏・川端 亮 共著
A5判/228頁/本体2,800円(税別)

ITText 情報リテラシー

海野 敏・田村恭久 共著
A5判/248頁/本体2,800円(税別)

ITText 人工知能

本位田真一 監修 松本一教・宮原哲浩・永井保夫 共著
A5判/200頁/本体2,500円(税別)

ITText コンピュータアーキ テクチャ

内田啓一郎・小柳 滋 共著
A5判/236頁/本体2,800円(税別)

ITText データマイニングの基礎

元田 浩・津本周作・山口高平・沼尾正行 共著
A5判/292頁/本体3,200円(税別)

ITText 自然言語処理

天野真家・石崎 俊・宇津呂武仁・成田真澄・福本淳一 共著
A5判/192頁/本体2,500円(税別)

ITText 応用Web技術

市村 哲・宇田隆哉・伊藤雅仁 共著
A5判/210頁/本体2,500円(税別)

ITText 認知インタフェース

加藤 隆 著
A5判/248頁/本体2,800円(税別)

ITText プログラム仕様記述論

荒木啓二郎・張 漢明 共著
A5判/210頁/本体2,800円(税別)

ITText 情報と職業

駒谷昇一・辰巳丈夫・楠元範明 共著
A5判/232頁/本体2,500円(税別)

ITText アルゴリズム論

浅野哲夫・和田幸一・増澤利光 共著
A5判/242頁/本体2,800円(税別)

ITText ソフトウェア開発

小泉寿男・辻 秀一・吉田幸二・中島 毅 共著
A5判/224頁/本体2,800円(税別)

ITText 基礎Web技術

松下 温 監修/市村 哲・宇田隆哉・伊藤雅仁 共著
A5判/200頁/本体2,500円(税別)

ITText 知識マネジメント

大澤幸生 編著
A5判/232頁/本体2,800円(税別)

ITText 情報セキュリティ

宮地充子・菊池浩明 編著
A5判/280頁/本体3,000円(税別)

ITText 分散処理

谷口秀夫 編著
A5判/240頁/本体2,800円(税別)

ITText Linux演習

前野譲二・落合 昭・生野莊一郎・塩澤秀和・高島俊徳 共著
A5判/224頁/本体2,500円(税別)

ITText インターネットプロトコル

阪田史郎 編著
A5判/272頁/本体2,800円(税別)

ITText 組込みシステム

阪田史郎 著 高田広章 編著
A5判/280頁/本体3,000円(税別)

ITText システムLSI設計工学

藤田昌宏 編著
A5判/242頁/本体2,800円(税別)

ITText Java基本プログラミング

今城哲二 編 布広永示・マッキン ケネス・ジェームス・
大見嘉弘 共著
A5判/234頁/本体2,500円(税別)

ITText 人画像処理

越後富夫・岩井儀雄・森島繁生・鷺見和彦・井岡幹博・
八木康史 共著
A5判/258頁/本体2,800円(税別)

ITText 情報理論

白木善尚 編 村松 純・岩田賢一・有村光晴・渋谷智治 共著
A5判/248頁/本体2,800円(税別)

ITText Java/UMLによる アプリケーション開発

布広永示・高橋英男 共著
A5判/208頁/本体2,600円(税別)

ITText Javaオブジェクト指向 プログラミング

布広永示 編著
A5判/280頁/本体2,800円(税別)

ITText ユビキタスコンピュー ティング

松下 温・佐藤明雄・重野 寛・屋代智之 共著
A5判/222頁/本体2,800円(税別)

ITText HPCプログラミング

寒川 光・藤澤清次・長嶋利夫・高橋大介 共著
A5判/246頁/本体2,800円(税別)

お申し込みは



オーム社

101-8460 東京都千代田区神田錦町3-1
TEL 03(3233)0641 FAX 03(3293)6224

<http://www.ohmsha.co.jp/>
本体価格(税別)は変更する場合があります。



情報処理学会の会員になりませんか！

www.ipsj.or.jp

新規会員
募集中

一般社団法人 情報処理学会は、IT に関する専門家集団として健全な情報化社会の実現に向けて、学術・文化・産業等の多方面に貢献しています。

■活動の概要

- 機関誌（「情報処理」「情報処理学会論文誌」）の発行
- 各種行事の開催（研究発表会、全国大会、FIT（情報科学技術フォーラム）、シンポジウム、連続セミナー他）
- 情報処理教育活動
- 国際交流
- 標準化活動
- 出版活動

■会員になるには

入会金（正会員のみ）と会費をお振り込みの上、入会申込書をお送りください。理事会で承認後会員証（賛助会員除く）をお送りします。情報処理学会の会員は、個人会員と賛助会員から構成されています。

個人会員

正 会 員：当学会の中心的会員で、IT 分野に携わっているかまたは興味のある個人
学生会員：学校に在学中の個人
名誉会員：当学会の活動において特別な功績のあった個人

賛助会員

当学会の活動をサポートする法人

■ご入会いただくと、こんな良いことがあります。

1 最新技術を紹介する会誌「情報処理」が毎月お手元に届きます。

特集：全国技術系勉強会マップ～技術者のライブセッションに参加しよう！～/バーチャルリアリティとインタラクティブアートの相互作用による発展/クラウドを支えるデータストレージ技術/アナログ TV 放送の終焉/夏休み工作のためのフィジカルコンピューティング入門/高度 ICT 人材育成の今とこれから/高齢社会とコンピューティング/健康コンピューティング/食とコンピューティング/電飾コンピューティング、他

2 実務の現場で IT を実践する皆様に向けた論文誌「デジタルプラクティス」が年 4 回お手元に届きます。

特集：XML の動所（1 月刊行）/世界に飛び出す日本のソフトウェア（4 月刊行）/コンタクトセンタ（7 月刊行）/標準化（10 月刊行）

3 電子図書館（BookPark/情報学広場）で「情報処理」の過去の記事を見ることができます。

4 「連続セミナー」に会員価格（7,000 円お得）で参加できます。

時代に即しかつ技術の先進性に富んだ内容をテーマに、その分野の第一線で活躍している講師を招いて年数回にわたり開催しています。2010 年度は「クラウドコンピューティングを自在に使いこなす」をテーマに、6 回の開催がありました。

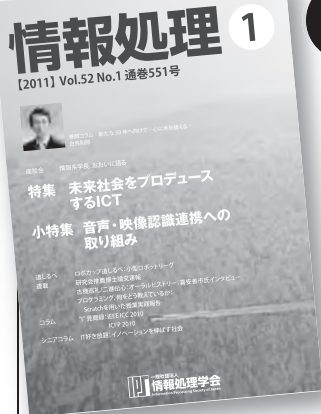
5 ホットピックスに対応する「シンポジウム・セミナー」（5,000 円以上お得）や「研究会」に会員価格で参加できます。

インターネット、E ビジネス、セキュリティ、ユビキタス・モバイル・情報家電・組み込み、ディメンダブルシステム、低消費電力化、リコンフィギャラブルプロセッサ、グリッド、UML・オブジェクト指向・アスペクト指向、エージェント、セマンティックウェブ・XML・データマイニング、マルチメディア、エンタテインメント・バーチャルリアリティ、e-ラーニング、バイオインフォマティクス、バイオメトリクス、量子コンピューティング・DNA コンピューティング、進化的計算・複雑系、ITS、金融工学・経済物理

6 出版図書が会員割引で購入できます。

IT Text シリーズ、英文図書 Advanced Information Technology シリーズ、日本のコンピュータ史等

他にも会員向けサービスがたくさんあります。詳細は学会 Web サイトをご覧ください。



2011 年

ホット
ピックス

お問い合わせは、
一般社団法人 情報処理学会 会員サービス部門

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 4F
Tel.(03)3518-8370 Fax.(03)3518-8375 mem@ipsj.or.jp

「ソフトウェアジャパン 2011」企画運営

一般社団法人 情報処理学会 技術応用運営委員会

委員長	丸山 宏
副委員長	近山 隆 (東京大学)
幹事	谷口倫一郎 (九州大学)
委員	大場みち子 (公立はこだて未来大学)
	奥乃 博 (京都大学)
	落谷 亮 ((株)富士通研究所)
	串間 和彦 (日本電信電話(株))
	塚本 昌彦 (神戸大学)
	西 直樹 (日本電気(株))
	宗森 純 (和歌山大学)
	横田 治夫 (東京工業大学)

一般社団法人 情報処理学会 ソフトウェアジャパン 2011 実行委員会

委員長	近山 隆 (東京大学)
副委員長	谷口倫一郎 (九州大学)
委員	諏訪 良武 (ワクコンサルティング(株)) [サービスサイエンス]
	萩川 友宏 (静岡大学) [ユニバーサルデザイン協創]
	安信千津子 ((株)日立製作所) [IT ダイバーシティ]
	掛下 哲郎 (佐賀大学) [高度 IT 人材育成]
	宮崎 義文 (イー・パフォーマンス・ネクスト) [コンタクトセンター]

ソフトウェアジャパン 2011 の開催にあたりまして、本会議の開催趣旨にご賛同をいただきましたスポンサー様、サポーター様ならびにご協賛、ご後援をいただきました関係省庁、団体様、誠にありがとうございました。
ここに厚くお礼申し上げます。

SUPPORTERS

富士通ミドルウェア株式会社



株式会社富士通ソフトウェアテクノロジーズ



富士通ミッションクリティカル
ソフトウェア株式会社



東京工科大学



慶應義塾大学 環境情報学部



東北大学 電気通信研究所白鳥客員教授室



鉄道情報システム株式会社



ニフティ株式会社



株式会社アイロベックス



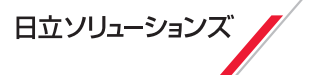
東芝ソリューション株式会社



株式会社日立情報システムズ



株式会社日立ソリューションズ



ソネットエンタテインメント株式会社



株式会社NTC



株式会社日立東日本ソリューションズ



株式会社ウェザーニューズ



三菱電機情報ネットワーク株式会社



南山大学 数理情報研究センター



三菱電機インフォメーションテクノロジー株式会社



NTTアドバンステクノロジー株式会社



リコーITソリューションズ株式会社



オープンリソース株式会社



オープンワークス株式会社



三菱電機株式会社



富士フイルムソフトウェア株式会社



日本電信電話株式会社



メディア協賛

株式会社リックテレコム
「月刊コンピュータテレフォニー」



ITmedia エグゼクティブ



日経BP ITpro



記載の名称・ロゴは、各社・団体の商標です。掲載は申込み順です。